



パナソニック[®]

キッチンから、笑顔をつくろう

人と自然にやさしい住空間を目指して

2018

社会・環境報告書

contents

■ トップメッセージ	2
■ 経営理念	3
■ 会社概要	4
■ 社会・環境活動	5
■ クリナップ キッチンタウン・東京	6
■ 経営思想	8
■ 組織統治	11
コーポレート・ガバナンス	
内部統制	
コンプライアンス/リスクマネジメント	
■ 労働慣行	14
働きやすい職場づくり	
人材育成	
ダイバーシティ	
労働安全衛生	
■ 社会的役割	18
社会とのかかわり	
■ 公正な事業慣行	21
資材調達	
グリーン調達の実施	
■ 社会・環境配慮型商品の開発	23
クリナップのモノづくり	
業界初のアイデアと技術	
■ 環境報告	32
環境方針	
環境保全活動推進体制	
事業活動に伴う環境課題	
環境計画の目標と成果	
環境活動	
環境負荷の低減	
環境会計	
環境経営	
環境教育・保安防災への取り組み	
■ 環境保全活動の沿革	47
■ トピックス	48
■ 第三者意見	49

編集方針

本報告書は、2005年に「環境報告書」として発行以来、記載内容の充実を図ってきました。2017年版からクリナップの社会的な活動の取り組みを開示するためタイトルを「社会・環境報告書」に変更し、新たに経営思想、組織統治、労働慣行、社会的役割、公正な事業慣行の項目を加えております。また、第三者意見として、特定非営利活動法人循環型社会研究会理事の山口民雄氏よりご講評をいただいております。

社会・環境報告書の範囲

報告する対象期間／2017年4月1日から2018年3月31日を基本としていますが、一部それ以前のもの、および本書発行直近のものも含んでおります。

報告するデータ／2013年度から2017年度までの5年間のデータを基本としていますが、一部該当しないものもあります。

報告する対象組織／この報告書の対象組織は下記の通りです。

●**クリナップ株式会社**／本社・いわき部門／生産工場（四倉工場、鹿島システム工場、鹿島工場、湯本工場、岡山工場）

●**関連会社**／株式会社クリナップステンレス加工センター（野田工場、鹿島アート工場）／クリナップロジスティクス株式会社／クリナップテクノサービス株式会社／クリナップハートフル株式会社／クリナップソリューション株式会社

参考ガイドライン／この報告書は環境省「環境報告ガイドライン2018年版」「環境会計ガイドライン2005年版」、社会的責任に関する国際規格「ISO 26000」を参考にしています。

企業理念は「家族の笑顔を創ります」 ～創業70周年に向けて～

クリナップの創業は1949年。長年にわたり、キッチンをはじめとする水まわり商品をつくり、家族の暮らし方とともにお届けしてきました。そして、私たちは企業理念を強く意識し、ここまで成長することができました。

“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」であり、クリナップの企業活動のすべてが、この理念の実現に向けられています。

数十年を経て今なおクリナップが存続していただけるのは、社会に生かされ必要とされてきたから。その謙虚な心なくして私たちの未来はないと考えています。

この理念のもとでクリナップは、社会、環境に配慮した新しい商品をご提供してまいりました。2018年2月発売の「CENTRO (セントロ)」では、「洗エールレンジフード」の自動洗浄機能を強化し、当社比で使用する水量を従来の約2分の1の節水を実現しました。また、「流レールシンク」は、シンク内の野菜くずなどを新発想の水路「流レール」によって排水口まで流すしくみであり、洗いもの作業におけるお客さまの悩みの声を何とかしたいという想いで開発しました。2018年9月に発売した「STEDIA (ステディア)」では、従来のステンレス製に加え、人工大理石製の「流レールシンク」も設定し、お客さまのニーズに合わせて商品選択を広げました。

社会とのかかわりでは、東日本大震災の福島県内における復興の一環として「公益財団法人クリナップ財団」の設立に寄与し、同財団は給付型奨学金制度によって福島県の学生を支援しています。また、特例子会社のクリナップハートフル株式会社では、クリナップの創業に由来した地である荒川区西日暮里に障がい者雇用創出の場として「クリ夫のパン屋」を2016年11月にオープンし、地域住民の皆さまに焼きたてのパンをご提供してまいりました。

経営としての事業活動のなかに社会性や文化性をもって、皆さまからご好意をお持ちいただき、常に企業理念を忘れず、自らの家族や社会に誇れる企業をこれからも目指してまいります。

本誌は、「2017社会・環境報告書」に、労働安全衛生、社会とのかかわりあいなどの情報を追加し、皆さまにクリナップを知っていただき、社会からの信頼を高めてゆくために「2018社会・環境報告書」として作成いたしました。クリナップの事業活動のなかの社会性、文化性、環境配慮について詳しく紹介していますので、ご一読いただければ幸いです。



代表取締役会長

井上 強一

経営理念

おかげさまでクリナップは、2018年に創業69周年を迎えました。

2009年の創業60周年に制定した企業理念「家族の笑顔を創ります」を胸に、全社員一人ひとりが変革をはかり、こころを一つにして、クリナップを創造していきます。

創業者理念「五心」

一、創業の心

我々は一家一族の精神に則り喜びも苦しみも傾ち合い永遠に発展する会社をつくらねばならぬ。

一、親愛の心

親愛の心は家庭・企業・社会の基である。人との心の繋がりを大切に、信頼し努力しあって生きよ。

一、創意の心

創意・開発は我が社の生命である。この心を忘れることなく会社の繁栄をはかり社会に貢献せよ。

一、技術の心

新たな市場の創出のため、広く技術を内外に求め集約せよ。そして技術を生む知恵を磨け。

一、使命の心

我が社の使命は社業を通じ社会に奉仕することにある。常に感謝の心を忘れることなく邁進せよ。

企業理念

「家族の笑顔を創ります」

この理念は、クリナップが現在あるいは将来実践する活動の方向性や領域、提供する価値、使命などを凝縮しています。全社員で共有し実践すること。本当の笑顔を創り上げお客様さまや家族、そして社会へと拡げていくことを意味します。私たちクリナップは、これまでの「五心」に代表される経営信条等を精神的規範として忘れることなく、持っている力全てを結集し、変革に挑戦し続けます。

創業者理念
「五心」

企業理念
「家族の笑顔を創ります」

行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を創ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

ブランドステートメント

「キッチンから、笑顔をつくろう」

事業としては「キッチンダントツNo.1」をめざす
お客様に対しては「キッチンの代名詞」としての評判をつくる

活動方針

ブランドステートメント

「キッチンから、笑顔をつくろう」

クリナップが発信するメッセージは、「キッチンから、笑顔をつくろう」です。このブランドステートメントのもと、キッチン分野で絶対的なポジションを目指します。「キッチンと言えばクリナップ」のブランドイメージをより強固なものにしていきます。

行動理念

「私たちは、心豊かな食・住文化を創ります」

「私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます」

「私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります」

「心豊かな食・住文化を創る」とは、注力すべき事業領域と提供価値を示しています。当社は、従来からキッチンを中心として、事業を営んできました。キッチンは、私たちの生活の中で食と住の交点にあります。おいしいもの、心のこもったものをつくり、食べ、そして語らい、すごす。家族が家庭を実感するひとときです。クリナップは、キッチンこそが家庭づくりの核であると考え、笑顔が絶えない家族形成に貢献できる価値の提供に尽力します。

会社概要

クリナップは、1949年、座卓を製造販売する事業から始まりました。その後、キッチンメーカーへの事業シフトをしてから、暮らしの中に新製品を送り出し続け、新しい暮らしを提案し、今では、システムキッチン、システムバスルーム、洗面化粧台などの水まわり住宅設備機器の専門メーカーとして事業活動を行っています。



本社正面

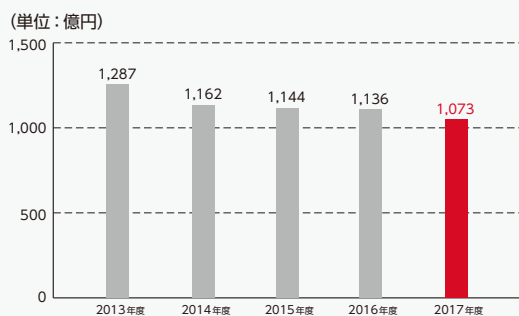
会社概要

社名	クリナップ株式会社
英文社名	Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号 電話03-3894-4771 (大代表)
創業	1949年10月5日
会社設立	1954年10月5日
上場	1990年2月6日 東証2部上場 1991年9月2日 東証1部指定
資本金	132億6,734万円
決算期	3月(年1回)

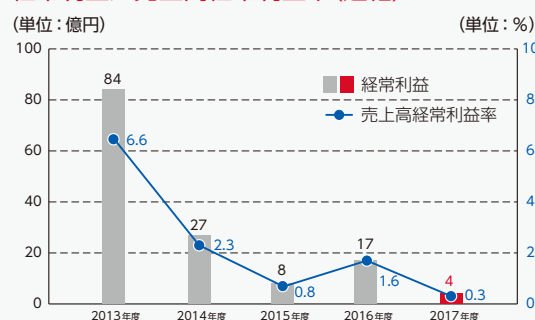
業績の推移 売上高、経常利益／売上高経常利益率、当期純利益／売上高当期純利益率、総資産について報告します。

連結：本体●クリナップ株式会社、生産／関連1社●株式会社クリナップステンレス加工センター、商社／関連1社●井上興産株式会社、運輸／関連1社●クリナップロジスティクス株式会社、取付・設置・サービス／関連1社●クリナップテクノサービス株式会社、人材派遣・介護／関連1社●クリナップキャリアサービス株式会社、障がい者雇用／関連1社●クリナップハートフル株式会社、情報システム／関連1社●クリナップソリューション株式会社、中国●可麗娜厨衛(上海)有限公司、可麗必斯家具(瀋陽)有限公司

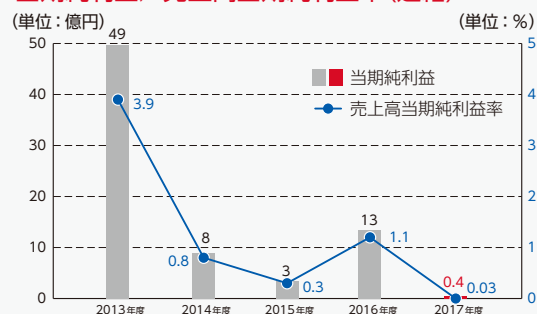
売上高(連結)



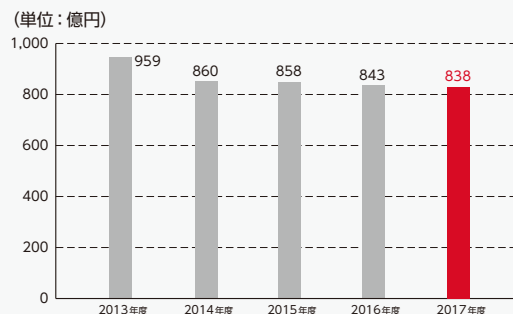
経常利益／売上高経常利益率(連結)



当期純利益／売上高当期純利益率(連結)



総資産(連結)



暮らし価値創造企業「Cleanup」を目指し、 トータルリードタイムを最適化

■ 暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革

2018年に掲げたクリナップの経営ビジョンは『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』です。その意味は、クリナップは「キッチンの専門家」として、キッチン、ダイニング、リビング、サニタリー空間に「新たな暮らし価値」を創造・提案することで世界中のお客さまに「感動」をお届けし、いつまでも選ばれ続ける企業を目指すことです。

そのために開発された高級市場向け戦略製品が、2月に発表された当社最上位システムキッチン「CENTRO」と高級洗面化粧台「TIARIS」です。

■ トータルリードタイムとトータルコストの最適化

クリナップの企業活動は、営業/開発、製造から始まりますが、その後の工程などすべてを所轄するのがCS推進本部です。具体的には、荷役、物流、組立/取付/設置、そしてアフターサービスを担当しています。

CS推進本部の課題は、トータルリードタイムの最適化です。リードタイムが最適化されれば、無駄の削減によって品質が向上され更にトータルコストも低減されます。

2018年度はクリナップロジスティクス株式会社（物流）とクリナップテクノサービス株式会社（取付/設置、修理/メンテナンス）という関連会社2社を含め「CS推進本部のあるべき姿の実践の推進」、そして他部門と協業する「稼ぐCS部門になる」という2方針を掲げています。リターンナブル梱包やシュリンク梱包（p37参照）も、このような取り組みによる成果です。

■ カスタマーセンターの体制・運用の再構築

顧客満足度向上の具体的な取り組みとして、「カスタマーセンターの体制・運用の再構築」があります。お客さまがお電話されるのはカスタマーセンターですが、修理や部品取り寄せをカスタマーセンターが行うわけではありません。クリナップテクノサービス株式会社に連絡して修理やメンテナンスの依頼をしています。そしてクリナップテクノサービス株式会社はお客さまのご自宅に訪問し対応するサービスマンの手配をします。部品の手配は、パーツセンターを通して行っています。

このように多段階に分割された業務を効率化すれば、よりスピーディー、かつ低コストでサービスを提供することが可能となります。業務の流れを全体として見直し、無駄のない体制と運用への再構築を推進しています。

■ 新クリーニングサービスという事業創出

キッチンやバスルームは製品寿命が長く、長期間ご使用が可能です。従って、汚れが蓄積され家庭での掃除ではなかなか新品同様の美しさを取り戻すことは困難です。また、夫婦共働き世帯、高齢者世帯の増加により、掃除の時短や負担軽減に対するニーズが高まっています。

そこでクリナップはプロによるクリーニングサービス事業をさらに伸ばそうとしています。現在もクリナップテクノサービス株式会社がクリーニングを実施していますが、年間数千件となっています。そこでこれまでの販売セットを分母と考えれば、さらに成長可能な分野と位置づけることができますので、新クリーニングサービスを創出していきます。



取締役 常務執行役員
CS 推進本部長
大竹 重雄

「新たな暮らし価値」を創造・提案する共感型ショールーム

■ 1970年の初ショールームから 現在は103カ所に拡充

クリナップは経営戦略として「ショールームを核とした販売戦略」を掲げています。初めてのショールームを東京・飯田橋に開設したのは1970年に遡り、顧客との接点を重視する姿勢は一貫しています。以来半世紀近くの時が経過し、ショールームは日本全国に103カ所（2018年4月1日現在）あります。

ショールームは「暮らし方発信情報拠点」と位置づけており、商品や食に関する情報に精通したショールームアドバイザーがお客さまの暮らしの課題・問題にお応えしています。

■ 東京・名古屋・大阪の「キッチンタウン」

103カ所のショールームの中でも旗艦ショールームとして位置づけているのが3つの「キッチンタウン」です。東名阪にあり、キッチンタウン・大阪は2012年7月27日、キッチンタウン・東京は2015年10月3日、キッチンタウン・名古屋は2016年10月15日にオープンしました。

キッチンタウンには、システムキッチンやシステムバスルー

ム、洗面化粧台を展示しており、食・住に関するイベントなどを定期的に開催し、最新の商品ラインアップとライフスタイルの提案を通じ、暮らし方のサポートをしています。

■ 「暮らし価値」を体感する最新設備

キッチンタウン・東京は新宿副都心・甲州街道沿いに位置しており、その役割は、東京を中心とする首都圏市場の需要獲得です。車いすや老眼鏡の貸し出しのほかに、お子さま連れのお客さまのために授乳室、キッズコーナーが設けられ、おむつ替えシートもあります。

最新設備としては、ショールームを入るとすぐ右にプロジェクション・マッピングによる説明コーナーが設けられています。これはクリナップキッチンの特長である「収納」「洗エール」「流レール」の説明画像をコンピュータで作成し、キッチンに投影するものです。

またキッチン・シミュレーターは、シンクやレンジの位置や大きさを投影して、お客さまがキッチンのレイアウトを検討しやすくする設備です。



キッチンタウン・東京



クリナップのキッチン3大機能を説明するプロジェクション・マッピング



ドリーミアショップ。「Dreamia seminar」で使われているキッチン小物を販売



キッチン・シミュレーター

■ ショールームアドバイザーは キッチンのプロ

一般来場者は家族で来られることが多いので「名」ではなく「組」で表します。キッチンタウン・東京の場合、一般来場者は月に約1,500組。単純計算では週に400組ですが、実際には休日の来場者が多く日曜日には100組ということも珍しくありません。

お客さまの対応をするのがショールームアドバイザーです。キッチンタウン・東京には21名のスタッフがいますが、ショールームアドバイザーは18名です。入社2年目以上のショールームアドバイザーは整理収納アドバイザー2級、食育インストラクター3級を取得し、キッチンのプロとしての知識を磨いています。



サロン(商談コーナー)にはキッズコーナーが設置

■ キッチンタウンで開かれている 一般参加型イベント

クリナップには「おいしい暮らし研究所」という部署があり、自宅で料理などを教えるサロンエゼを対象とした情報サイト「Dreamia Club」を運営しています。キッチンタウンは「Dreamia Club」と連携し「Dreamia seminar」を開いています。

これはサロンエゼの先生に無料でキッチン・スタジオをご使用いただくもので、毎週火・木・日に行われています。この教室で使われているキッチン小物はドリーミアショップで販売されています。

この他に業者さま向けイベントも開催されています。工務店さま、設計事務所さま、デザイン事務所さまなどの業者さま向けの商品説明会も頻繁に行われています。



教師用1台と生徒用2台のキッチンがあるキッチン・スタジオ

VOICE



営業本部 東京支社
販売促進部 新宿ショールーム所長
池田 和美(後列右端)

お客さまへの対応で もっとも重要なのはニーズの把握

ショールームの課題は、お客さまへの対応が十分にできないことです。いちばん忙しいのは日曜日で予約されたお客さまが20~30組に対し、予約なしのフリーで来られたお客さまが60~70組くらい来られます。予約して来られたお客さまへの対応でアドバイザーは埋まっており、フリーのお客さまへの案内が難しいのです。

そこで「カタログください」というフリーのお客さまにはアンケートをご記入いただき、特別招待券や優待券を差し上げて接点を維持し、予約してご来場いただくように工夫しています。また、館内案内担当がお客さまへの声がけを徹底しています。

アドバイザーがもっとも重視しているのは、お客さまのニーズを知ることです。全国のショールームでお客さまアンケートを実施してニーズを調査しており、個別の対応でもお客さまが「何を求めているのか」を会話から引き出し、「これからどのような生活をしていきたい」と考えておられるのかを把握するのです。そしてクリナップの商品を通じて、このニーズに応える提案を行うのです。

社会との接点(1)

■ 企業理念は「家族の笑顔を創ります」

クリナップの創業は1949年。長年にわたり、キッチンをはじめとする水まわり商品をご提供してきました。

“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」です。



企業理念である「家族の笑顔」には3つの意味をこめています。ひとつはお客さまや社員など“個人の笑顔”、そして私たちが大切にしている“家族の笑顔”。もうひとつは個人や家族の集合である“社会の笑顔”です。

クリナップは「個人・家族・社会の笑顔」を増やし、健全な社会づくりに貢献するために企業活動を行っています。

■ クリナップは「社会の公器」

創業から数十年を経て、いまなおクリナップが存続しているのは、社会に必要とされ生かされてきたからです。その謙虚な心なくして、将来はないと考えています。

企業だけが栄えるのではなく、社会から必要と認められ、社会も栄える。そうありたいとクリナップは考えています。

■ キッチンの代名詞へ

キッチンは、単に食事をつくる場所や道具ではありません。家族の絆を育み、子どもがおとなへと成長する親子の大切な場、それがキッチンです。

私たちはキッチンの専門家として、誰よりもキッチンの役割の大切さを考え日々研鑽しています。「キッチンといえばクリナップ」。そう思っただけのよう努力し続けます。



■ 食・住文化の交点から

食べる・住まう、つまり食・住の文化の「交点」にあるもの、それがキッチンです。その「交点」から食・住に関わるニーズやトレンドを研究し、商品づくりをしてきました。

これまででもこれからも、色々な人々と交流し社会的、文化的に意義のある領域に活動を広げ事業に活かしてまいります。

■ 社会から愛される企業へ

クリナップやシステムキッチンをより知っていただくために、絵本『世界にひとつのキッチン』を2014年9月30日に発刊しました。お客さまがショールームで商品を選び、商品が製造・配送・取付される工程を、子どもの目線で描いた絵本です。

各地の小学校や図書館に寄贈し、大変よろこばれました。また、公式キャラクター「クリ夫」は、各地のイベントやショールームで親しまれています。



社会との接点(2)

■ 一個づくりの多品種少量生産「CPS」

クリナップの企業理念を実現する、独自の製造・販売システムが「CPS(Cleanup Production System)」です。大量生産ではなく、一個づくりの多品種少量生産を基本とし、「必要なモノを・必要な時に・必要なだけつくる」ことによって、在庫ゼロ経営を目指しています。このシステムによって、高品質な商品をお手頃な価格で、スピーディーにお客さまにお届けしています。

① 営業／開発

全国に展開する営業担当者やショールームアドバイザーによって、お客さまからのニーズや課題が毎日吸い上げられ、開発や製造、取付・設置の各部門にフィードバックされています。

ここで得られた知恵やノウハウ、さまざまな情報は、高度なセキュリティを誇る情報システムに集約され、商品や業務の質の向上に役立てられています。

② 製造

お客さまからの注文情報は年間数十万件におよびます。そのすべてが、お客さまごとに発行される「生産指示カード」で把握され“世界にひとつのキッチン”がつくられていきます。

効率的な生産システムのなかにあって、人の手による高い技能を必要とする「クラフツマン(熟練工) シップ」が活かされている商品も多く、他社にない独自機能や高い意匠性を実現しています。

③ 物流／取付・設置

クリナップグループには、工場で作成した商品をより早く、確実にお客さまのもとへお届けする物流専門会社「クリナップロジス

営業／開発



ティクス株式会社」と、商品の取付・設置や各種サポート、メンテナンス業務を行う「クリナップテクノサービス株式会社」があります。

ともに「CPS」のなかで顧客満足を実現するための重要な一工程を担います。年間数十万セットにおよぶご注文商品をご希望の納期にお客さまへお届けできるのも、グループ一体で技術品質やサービス向上に努めている結果です。

④ サポート／リフォーム ⑤ コミュニケーション

キッチンやシステムバスルームは数十年間、家族とともに年を重ねていきます。ガスや電気機器などを常に安全、快適にお使いいただくためには、専門家による点検や迅速な修理・部品供給が不可欠です。近年はリフォームに関する需要も増加傾向にあり、これらのご要望にも応えられる体制が必要になってきています。

私たちクリナップは、商品をご購入いただいたお客さまとのコミュニケーションを絶やさず、いつでも信頼していただけるサービスのご提供を目指しています。

VOICE

CPS 人材の育成プログラムがスタート

CPSというモノづくり哲学は1986年に導入され、各工程があたかもベルトコンベアでつながっているかの如く、「流れ」でつなぎ経営効率の向上を図ることにあります。CPSは導入から30年以上が経過し、導入期である第1世代の多くは既に定年期を迎えています。私たちは第2世代となりますが、第3世代の戦略的育成のため、新たな人材育成プログラムもスタートしました。

プログラムは1回1週間、年に5回、同一メンバーで構成され、実際のラインで実践されます。対象者は次期改善リーダーとして期待される人材を部門長が人選します。このような取り組みによって、クリナップのモノづくり哲学は次世代に伝承されていくのです。



生産本部
CPS 推進室長
齋藤 進

社会との接点 (3)

■ 視覚障がい者向けにキッチンセミナー

キッチンタウン・東京にて視覚障がい者向けのキッチンセミナーを、2017年4月23日に開催し、約60名の視覚障がい者・補助者の皆さまに参加いただきました。

今回のセミナーでは、実際に調理ができるキッチン・スタジオに設置したシステムキッチン「クリンレディ」と「S.S.」を使い、皿洗いなど水仕事の水流で調理屑が集まる「流レールシンク」や、ぬるま湯を入れたタンクをセットしボタンを押すだけで、ファンとフィルターをまるごと掃除できる「洗エールレンジフード」などを紹介。参加者の皆さまに手で触れた体感を通して、ご好評をいただきました。



洗エールレンジフードの掃除方法をご紹介

■ サイトワールドに出展

クリナップは、東京・すみだ産業会館で2017年11月1～3日に開催された第12回視覚障害者向け総合イベント「サイトワールド—Sight World— 2017」に出展し最新システムキッチンの機能などを紹介しました。

高齢化とともに視覚に不安を持つ方も増加傾向にあり、クリナップではこのような方にも対応可能なリフォーム提案に取り組んでいます。

今回の出展では、シンク内の水の流れを手で触れて体感できるよう「流レールシンク」搭載のシステムキッチン本体を実演展示し、参加者の皆さまに最新システムキッチンの魅力を体感していただきました。

第12回 視覚障害者向け総合イベント



サイトワールド 2017

■ 長期間にわたってお客さまをサポートする「スマイル20」

水まわり設備は、お客さまの喜びや笑顔のある暮らしを支える「道具」です。しかし、道具である以上、日々のお手入れ、定期交換が必要な消耗品の補給、年月を重ねることで劣化してゆく部品の交換などが必要となってきます。

ずっと快適、ずっと笑顔。
20年間お手伝いします。



しかし10年後、20年後まで、機能や性能を維持してゆくことは、そう簡単なことではありません。いつ頃、何をすればいいのかわからないこともあるでしょう。

そこでご用意したのが、クリナップ20年サポートプログラム「スマイル20」です。機能・性能を維持してゆくためのメンテナンス情報をご提供するとともに、それに必要なサポート体制を整え、お客さまの「喜び」「笑顔」をお手伝いいたします。

■ ISO9001 (品質) への取り組み

クリナップは創業期から品質にこだわってきました。そして、1998年にはキッチンメーカーで初めて、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を認証取得しました。

物流を担う子会社、取付・設置・アフターサービスを担う子会社も認証取得を完了しています。

2015年版への対応は、2018年4月に完了しており品質方針に基づき、品質への取り組みを日々強化しています。

品質方針

1. お客さまの安全を第一に考え、製品安全の確保こそが最優先の品質であるとの認識を共有し、お客さまに安心してご使用頂ける高品質の製品を提供します。
2. 営業、開発、生産、購買、物流、取付・設置、アフターサービスの各プロセスにおける品質の監視および是正・予防処置活動を徹底して行うことにより、トータル品質の強化を推進します。
3. 法令、規制要求事項を順守し、社会から信頼される企業を目指します。
4. 教育・訓練を強化することにより全従業員の力量をさらに高めて品質の向上に努めます。
5. 品質マネジメントシステムの有効性の改善を継続的にを行います。
6. お客さまに感動していただける品質価値を創造するために、お客さまの声を積極的に取り入れて品質に反映させ、お客さま満足度の向上に努めます。

2018年4月1日現在

コーポレート・ガバナンス

■ コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

クリナップは、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、以下の基本的な考え方に基づき、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでいます。

- (1) 株主の権利を尊重し、株主の実質的な平等性の確保に努める。
- (2) ステークホルダーとの適切な協働を図る。
- (3) 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- (4) 取締役会による業務執行機能を実効化する。
- (5) 株主との間で建設的な対話を行う。

■ 取締役会の役割・責務

取締役会は、経営方針や経営戦略の重要な意思決定を行う機関であると同時に、取締役の職務の執行を監督する機関として、月1回定期的に、または必要に応じて臨時に開催し、会社の経営に関する重要事項を審議、決議しています。

また、クリナップは執行役員制度を導入し、業務執行機能を執行役員に分離し、取締役会において執行役員の業務執行状況を監督しています。

■ 監査役会の設置

クリナップは、取締役の職務の執行を監査する機関として監査役会を置いています。監査役は、取締役会、執行役員会等の重要な会議、または委員会に出席するほか、会計監査人、法務・監査部と連携すると共に、監査役会を月1回定期的に、または必要に応じて臨時に開催し、取締役の職務の執行を主として適法性の観点から監査を

実施しています。

なお、当社の会計監査業務は仰星監査法人が実施しており、監査役は、会計監査人連絡会において監査の状況等の説明を受けています。

■ 独立社外取締役および社外監査役の選定

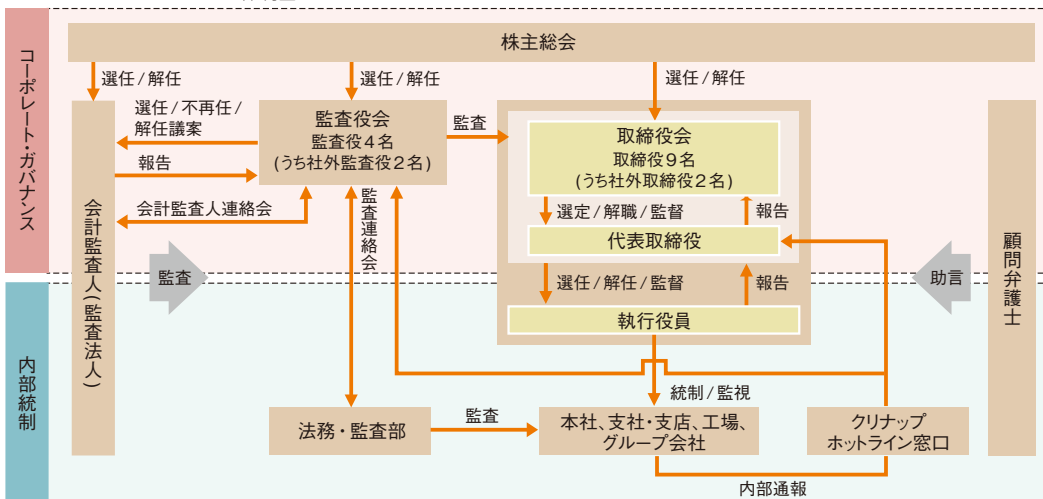
取締役会は9名の取締役(うち社外取締役2名)で構成されています。これは、変化するステークホルダーの期待に迅速に対応し、良好な関係を強化するためのものです。豊富な業務経験と当業界について専門的な見識を有した社内取締役と、それぞれの専門分野における豊富な経験と幅広い知見に基づき当社の経営の監督と助言を行う社外取締役が取締役会の構成員となることで、迅速かつ的確に業務執行の意思決定を行い、業務執行の相互監視と、外部からの経営監視を行うことが目的であり、現状の体制が当社に最も適していると判断したことによるものです。

また、社外監査役が、客観的かつ中立的な立場で取締役会に出席し、監査を実施しているので、外部による経営監視は十分に機能していると考えています。

■ 反社会的勢力への対応

クリナップは、2010年7月に「内部統制システムの整備に関する基本方針」に「反社会的勢力排除に向けた体制」を追加し、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で対応することを定めました。また、当社グループの規程である「行動基準」において、反社会的勢力との係わりを一切持たないことを定め、これを社員に対して周知・教育することで、反社会的勢力の排除に向けた全社的取り組みを行っています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制

■ 内部統制システムの整備

クリナップは2006年5月に「内部統制システムの整備に関する基本方針」を取締役会で決議しました。その決議に従い、コンプライアンス、リスク管理および内部統制の強化に向けて体制の整備に努めており、担当取締役および監査役が進捗状況を確認しています。

なお、p11に記述したとおり、2010年に「反社会的勢力排除に向けた体制」を追加し、2015年4月に「子会社の業務の適正を確保するための体制」の追加について取締役会で決議しており、必要に応じて適宜基本方針の見直しを行っています。

■ 内部統制の体制

内部統制の体制については、金融商品取引法による内部統制報告制度の開始に合わせて内部統制委員会を設置しており、全社活動として内部統制の整備および運用課題の改善に取り組むための体制を整備、維持しています。

また、財務報告に係る内部統制システムの整備および運用状況評価については、内部統制委員会の事務局を法務・監査部に置き、重要な事業所を選定し、評価しています。なお、統制活動に係る監査および評価の結果については、担当間で情報を共有し、内部統制報告制度のもとで一元的に取り扱っています。

■ 内部監査

内部監査については、法務・監査部が監査を担当し、担当取締役が承認した年度計画に基づき決定した社内および子会社の事業所に対し、法令および社内規程への準拠性、適法性、業務活動の有効性、効率性等を確認するために監査を実施しています。

■ 監査役監査

監査役監査については、取締役会に出席して質問をし、または意見を述べるほか、執行役員会、その他重要な会議または委員会への出席、重要な決裁書類の閲覧、関係者からの報告聴取、会計監査人および法務・監査部との協議または意見交換等により取締役の職務の執行および執行役員の業務執行を主として適法性の観点から監査を実施しています。

なお、監査役会は月1回定期的に開催し2017事業年度は臨時監査役会を含め15回実施しています。監査役と仰星監査法人との会計監査人連絡会は同事業年度は7回実施し、監査情報の交換等を行っています。

■ 内部統制システムの整備に関する基本方針（抜粋）

(2015年4月)

当社グループは、企業理念である「家族の笑顔を創ります」をはじめとする経営理念体系の実践により、企業価値の向上を図り、企業としての社会的責任を果たすため、当社グループの業務の適正を確保するための体制整備に関する基本方針を以下のとおり定める。

1. 当社および当社子会社の取締役などおよび使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
 - 1) 当社グループは、「行動理念」を含む経営理念体系のもと、社内規程「行動基準」を定め、当社グループのすべての役員および従業員はこれを順守する。また、内部監査担当部門を中心に「行動基準」の浸透と実現に努める。
 - 2) 当社グループは、「内部通報対応規程」を定め、内部通報制度による不正行為等の早期発見および是正を図るとともに、通報者の保護を行う。
 - 3) 当社内部監査担当部門は、「内部監査規程」その他関連社内規程に基づき、監査役などと連携を図り、子会社を含めたグループ全体の監査を行い、その結果を被監査部門のみならず、関係部門ならびに当社代表取締役および当社監査役へ報告する。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
 - 1) 当社グループは、「総括文書管理規程」その他関連規程を定め、当社および当社子会社の取締役の職務の執行に係る情報につき、適切に保存および管理を行うとともに、秘密保持に努める。
 - 2) 取締役および監査役は、これらの情報を必要なときに閲覧できる。
3. 当社および当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - 1) 当社グループは、事業継続計画を策定し、危機の発生への速やかな事業継続体制を整備するとともに、当該事業継続計画に基づき、「危機管理規程」その他関連規程を定め、グループ全体の危機管理体制を整備する。
 - 2) 各部門、各子会社に係る各種危機管理体制を整備し、リスクの把握、分析、対応策の検討を行い、予防に努める。また、リスクが実現した場合の対処につき整備する。

(4.～11.省略)

※基本方針についてはwebをご覧ください。

https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_03.pdf

コンプライアンス／リスクマネジメント

■ クリナップの行動規範「行動基準」

当社グループは企業理念に基づき、ステークホルダーの期待に応えるための行動規範として、「行動基準」を2001年4月に制定しました。2006年8月には、「行動基準」の周知徹底を図るため冊子を発行し、「行動基準ハンドブック」として全ての取締役と社員に配付しています。また、当社グループ全社員への継続的な教育として「行動基準ラーニング」を2016年5月から実施し、コンプライアンス意識の向上に取り組んでおります。

内容については、必要に応じて適宜見直しを行っており、社会動向の変化や法令などの改正などを受け、2018年5月に「行動基準」の改正を行っています。



■ リスク管理体制

財務リスクの管理については、財務報告に係る内部統制システムの整備と運用状況の評価結果を取締役に報告し、内部統制委員会を中心に措置を講じる体制を整備しています。

また、内部監査の指摘事項の管理については、「監査報告書」を作成して担当取締役および監査役に報告するとともに、被監査部門の担当取締役および部門責任者が是正、改善状況を確認し、報告する体制を整備しています。

さらに、製品安全、安全衛生、環境保全、情報セキュリティおよび雇用などの各部門の所管業務に付随するリスクの管理につきましては、担当取締役のもとに管理体制、規程類を整備し、発生の予防および拡大防止に努めるとともに、リスクの発生またはそのおそれがある場合には直ちに代表取締役に報告する体制を整備しています。

子会社については、業務の適正を確保するため「子会社管理規程」その他関連規程に基づき、子会社が当社の取締役会や社長承認を要する事項および報告する事項を定め、連携と統制を行うしくみを構築しています。

■ お客さま情報の保護

お客さま情報の保護については、個人番号（マイナンバー）、個人情報、プライバシーに関する情報を保護する重要性を認識し、「個人番号および特定個人情報の適切な取り扱いに関する基本方針」および「個人情報保護方針」に従い、適切な管理体制のもとで取得、利用するとともに、紛失、漏えいを防止するための対応を行っています。

■ 内部通報制度「クリナップホットライン」

当社グループは、問題の早期発見と是正に対応するため、「内部通報対応規程」に基づき、通報者の保護を徹底した「クリナップホットライン」を運用しています。当社グループ全社員に周知するため、「クリナップホットライン」への通報に必要な情報、通報手段、通報者の保護などに関する詳細事項を「行動基準ハンドブック」に記載し、全社員に配付しています。

■ 事業継続計画と「生産体制の東西二極化」

「事業継続計画（BCP: Business Continuity Plan）」については、「内部統制システムの整備に関する基本方針」3項に定めています（p12参照）。

クリナップの歴史でもっとも大きな危機は、2011年3月の東日本大震災でした。クリナップの主力工場は福島県いわき市にあり、震災と津波による被害によって1カ月間の生産停止を余儀なくされたのです。そこで事業継続計画として「生産体制の東西二極化」に取り組みました。

「東西二極化」の「東」はいわき地区を指し、「西」は岡山地区を指します。岡山地区の生産能力を増強することにより、日本列島の東西いずれかが天災に襲われてもクリナップの生産が継続できるようにするのが「生産体制の東西二極化」です。

生産設備の工事は2012年から2016年にかけて行われ、東西二極化に関する事業継続計画は完了しました。

働きやすい職場づくり

■ 新人事制度の考え方

クリナップでは、2006年4月に年功序列型から役割成果主義型へ移行する人事制度を導入しました。これは会社業績への貢献度に応じた評価・処遇を行うものでした。しかし2011年12月に社員満足度調査を行ったところ、社員の大半は、給与と雇用を確保する「安定」、そして仕事を通じて自己実現する「成長」を求めていることがわかりました。

そこで2015年4月に「新人事制度」を導入しました。クリナップの人事制度の基幹は、役割グレードと職能等級の二本立てですが、その基幹は維持しつつ、社員の“働きがい”と“働きやすさ”を高めるために新人事制度を導入しました。改定されたポイントの多くは評価に関するもので、公正に評価し、評価に基づいて適切に育成していくことを目的としています。

新人事制度を導入して2年が経過したので、2017年12月にふたたび社員満足度調査を行いました。その結果、旧制度に比べて社員の満足度はおおむね向上しており、とくに「役割給(習熟方式)」の導入と、「転居を伴う異動者と単身赴任者」に対する支援強化の満足度は大幅に向上しました。

■ 働き方変革会議

長時間労働の是正にも取り組んできました。2015年に「働き方変革会議」を立ち上げました。この取り組みが始まる前までは、退社時間がきわめて遅い社員が1割程度いました。そこで受発注サーバの夜8時ダウンを開始し、2016年10月からは夜7時半のパソコンシャットダウンを始めました。

そして2018年4月から、営業職約800名を対象にしたモバイルワークを導入しました。直行直帰を推奨し、週2回の在宅勤務を認め、柔軟な勤怠管理制度にしました。移動時間の削減、隙間時間の有効活用など大きな成果が期待できます。

■ コンプライアンス、ハラスメント

クリナップ社員の必須知識やコンプライアンス、ハラスメントなどについては、「クリナップマスターコース」という社内eラーニングの5講座の履修を義務づけています。またクリナップ社員の行動規範については、「行動基準」に網羅されており、コンプライアンス、ダイバーシティ、パワハラやセクハラなどの各種ハラスメントなど細かく指針を示しています。

ハラスメントに対しては内部通報制度があり、社内窓口と社外窓口(弁護士)という2つの窓口があります。

■ メンタルヘルス

2015年12月にストレスチェック制度が施行されました。クリナップでは、施行前からストレスチェックテストを実施していましたが、制度化したものではなかったので、施行を機に制度化しました。

毎年ストレスチェックテストを実施し、社員のメンタルヘルス不調の予防に努めるほか、月に80時間以上の残業をした社員については産業医に面談できる制度も設けています。

・人事データ(単体)

	2015年度	2016年度	2017年度
従業員数(名)	2,735	2,767	2,956
平均年齢(歳)	40.6	40.6	40.0
平均勤続年数(年)	15.0	15.0	15.0
新卒採用数(名)	119	130	142

VOICE

モバイルワーク導入で働き方変革は第2ステップへ

働き方変革会議でもっとも問題になることが多いのは営業職です。お客さまとの折衝があり、放置すると退社時間が遅くなります。そこで夜7時半以降のパソコンシャットダウンを導入しましたが、働き方を見直す意識は高まる一方、残業業務のために早出、休日出勤をする営業職が増えました。そこで導入したのがモバイルワークです。

会社のタイムカードで勤怠を管理すると無理が出ます。時間と場所を選ばないモバイルワークなら効率的に仕事ができます。休日に自宅で仕事するとログが残るので、休日に勤務したことがわかり、「無届け」をなくせます。今後はモバイルワークの対象を広げ、女性が柔軟に働き方を選択できるしくみづくりを推進します。



常務執行役員
人事部長 兼
情報システム部
担当
永沼 建二

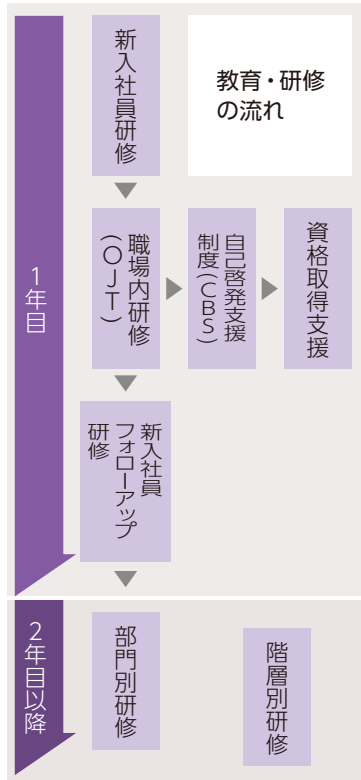
人材育成

■ 新入社員研修

入社後すぐに、研修施設に移動し、約3週間の集合研修を行います。ここでは、まず学生から社会人への生活習慣の切り替えとして、規則正しい生活を送っていただきます。

研修の内容は、社会人としての基本スキル、会社・業界の概要、歴史、商品・建築知識などです。社会人として、またクリナップ社員として必要な基礎知識をじっくりと学習します。長期にわたり同期と寝食を共にすることで、同期間の強い絆が生まれます。

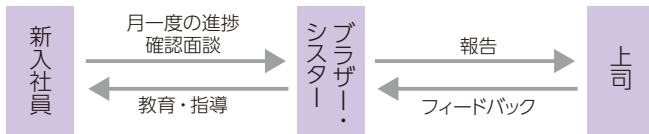
各職種とも、研修中の面談を通じ、新入社員それぞれの特性に合った事業所への辞令が交付されます。



■ ブラザー・シスター制度

初めての社会人生活では困難なことも多く待ち構えているはずですが、そこでスムーズに職場環境に慣れ、仕事に関するスキルを習得するため、当社ではブラザー・シスターと呼ばれる先輩社員が新入社員の指導にあたります。

仕事のみならず、日常生活における悩み、困りごとの相談相手としても、ブラザーやシスターがフォローしてくれます。



■ 職場内研修(OJT)と新入社員フォローアップ研修

新入社員研修後、各自配属先へ赴任となります。ここからが本格的な社会人生活のスタートと言えます。ブラザー・シスターの指導のもとで新入社員は成長していきます。

入社・赴任から約半年後に実施されるのが、新入社員フォローアップ研修です。各地へ配属となった新入社員が再度集合し、入社時から現在までを振り返り、現状の課題を整理した後、2年目に向けてのアクションプランを設定します。

■ 研修制度(部門別、階層別)

2年目以降になると、部門別研修と階層別研修があります。部門別研修は、商品研修、営業研修、マナー研修、開発研修、生産技術研修などの各部門で必要な専門知識を深めるものです。

特色ある部門別研修としては、30年以上の歴史があるキッチン&サニタリーデコレーター研修(社内資格)があります。キッチン&サニタリーデコレーターとは営業・ショールーム・開発技術職を対象とし、建築知識、図面の読み書き、プレゼンテーション手法などキッチンやサニタリー商品に関する専門知識・技術の取得を目的としています。階層別研修には、新任部門長研修、新任管理者研修、マネジメント養成スクールなどがあります。

■ 自己啓発支援(CBS)と資格取得支援

自己啓発支援の名称は「クリナップビジネススクール(CBS)」です。eラーニングは、インターネット環境があれば、時間・場所に左右されず、パソコンやタブレット、スマートフォンから学習でき、ビジネススキルや語学、マーケティングなど約100講座用意しています。

通信教育は、全社推奨コース・部門別推奨コースを用意しており、自身の役割に必要な講座を選択できます。また、定められた期間内に受講した通信教育が修了すると奨学金が支給されます。

資格取得支援は、社員の自己啓発の支援を目的としており、幅広いスキルや専門知識・技能の取得を目指し、会社の定めた公的資格を取得した社員に対して資格取得のお祝い金を支給します。

キッチンスペシャリストや建築士、インテリアコーディネーターなどの建築関係の資格から日商簿記や販売士、国家技能検定などが対象の資格になります。

■ 登工房

ものづくり研修センター「登工房」は、生産部門の社員に匠の技を伝承する研修施設です。名称は、創業者の故・井上登名誉会長の名前に由来し、「登工房」としています。

クリナップのものづくりは、機械化・自動化がどんなに進んでも手作りの部分を20%残す。それにより精巧で暖かみのある製品が他社との差別化を図ることが出来るとの考えによるものです。

積み重ねてきた木工・板金技術は、この「登工房」で熟練工から若い世代へ受け継がれています。



ものづくり研修センター「登工房」



機械板金の研修

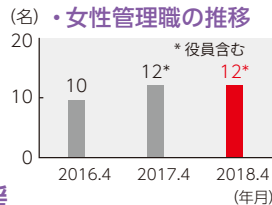
ダイバーシティ

■ 女性活躍推進と管理職登用

クリナップのダイバーシティへの取り組みは、女性視点を経営／ビジネスに取り入れることを目指し、女性活躍推進から始まりました。2008年に本社から女性社員を委員として選出し、「女性活躍推進委員会」が設置され、課題の洗い出しが行われた後「女性活躍推進室」が組織されました。

「女性活躍推進室」は2009年に「女性活躍推進課」に改称され、翌2010年より、女性管理職の登用を推進してきました。

女性管理職比率は、女性活躍推進法が成立した2015年の末には1.7%、それから約2年半が経過した現在は3.8%となり、社外役員1名を含め女性管理職は12名。この1年間の変化では、社内女性管理職のうち2名が部長職になりました。また2017年に社員一人ひとりが能力を最大限に発揮することで社員の成長と、会社の成長につなげていくことを目指し「女性活躍推進課」(名)・女性管理職の推移は「ダイバーシティ推進課」に改称され、活躍推進の対象範囲を広げていきます。



■ キャリア形成支援と両立支援

グループ企業を除くクリナップ単独の社員のうち、女性は約1/4です。その約半数が全国103カ所のショールームに勤務するショールームアドバイザーという職種です。

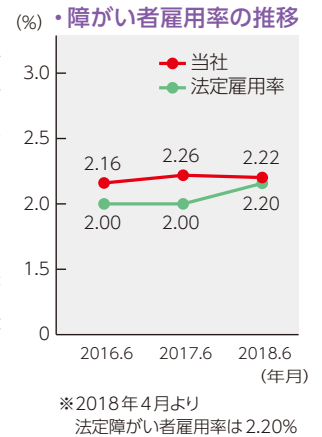
そこでショールームでのリーダー役の養成に取り組み、仕事への意欲を高める施策に取り組んできました。その結果、ショールーム所長が誕生し、多くのリーダーが育っています。また2017年4月に「コース転換制度」を新設しましたが、エリア社員からグローバル社員に転換し、係長に昇進するという事例も生まれています。

また、以前に比べて結婚や出産での離職者は減り、キャリア継続を選択する女性社員は増えています。いったん離職しても5年以内なら正社員として復職できる「カムバック制度」があり、積み上げてきたキャリアを継続していけるよう支援しています。

■ 障がい者雇用

クリナップの特例子会社として、社会に「自律」し、地域社会とともに「共生」できる会社を目指し2008年2月に設立したのがクリナップハートフル株式会社です(p18参照)。

障がいのある社員39名がおり、クリナップグループの施設管理業務や、データ入力、配送作業などの業務に従事しています。



■ 高齢者雇用

高齢者雇用については、50歳以上を対象とする「ネクストステップラン制度」があり、56歳時に定年前後の情報提供を行う場として「ライフプランセミナー」(社会保険の基礎知識など)を休日開催の自由参加として実施しています。そして59歳時には「定年退職ガイダンス」で、定年時の選択肢について説明を行っています。

60歳定年後も働きたいと考える人に設けられているクリナップの制度はふたつあり、ひとつは定年後再雇用制度です。これはクリナップグループ内で、再雇用希望者は職掌や職群に関係なく、クリナップグループの希望する職場を申し込みます。

もうひとつは社外転身です。クリナップグループ以外に就業機会を求める人のために、再就職支援サービスを行っています。希望者はこの制度を使って再就職することができ、50歳以上が利用できます。

・産休取得者数、育児休業取得者数

年度	2015	2016	2017
産休取得者数(名)	24	25	22
育児休業取得者数(名)	41	46	37

VOICE

多様な人材によって活性化するのがダイバーシティ

クリナップのダイバーシティは「女性活躍推進」から始まっていますが、いまでも男女の性別役割分担意識が残っていると思います。たとえば営業職は「男性」、ショールームアドバイザーは「女性」など。しかしそういう「男性がいい」、「女性がいい」はバイアスに過ぎないのかも知れません。多様な人材がいない職場は活性化しませんし、新しいものも生まれにくいでしょう。

多様な価値観や自由な発想は、新しい商品やサービス、しくみなどの開発につながります。同質の思考・価値観だけでなく、多様性を尊重し、それらを融合していくことが必要です。



人事部
ダイバーシティ
推進課長
村田 真規代

労働安全衛生

■ 労働安全衛生

生産本部では「ワークライフバランスの実現」と「長時間労働による健康障害防止」を目的として、毎月4日以上ノー残業デーを実施し、労使一体となって取り組み、ノー残業デーの取得率向上を図っています。

また、有給取得率向上施策として、取得率が低かったライン長・班長に対しマイバースデー休暇以外にアニバーサリー休暇2日の取得を促す施策を推進しています。

■ 2018年度労働安全衛生方針の重点方策

毎年度、生産本部長より「安全衛生方針」にて「基本理念」、「基本方針」、「重点方策」が掲げられます。2018年度の重点方策は、「安全意識の高揚」、「機械設備および作業のリスクアセスメント最適化」、「快適な職場環境づくりの推進」の3点です。

機械設備と作業のリスクアセスメントはこれまでも実施してきましたが、想定リスクを超える受傷度合いの労働災害が2017年度に発生したため、再評価を行い最適化することにより類似災害の発生を防止します。

クリナップ工場グループ安全衛生方針

【基本理念】

クリナップ工場グループは、社員の安全と健康の確保は企業活動と不可分な関係と認識し、安全で働きやすい職場環境を確保するよう活動します。

【基本方針】

- 1, 安全と健康の確保は、良好なコミュニケーションのもとに実現されるとの認識に立ち、社員との協議を尊重します。
- 2, 安全衛生関係諸法令および社内安全衛生諸規程による自主基準の順守により、管理レベルの向上を図ります。
- 3, 安全衛生マネジメントシステムを利用し、継続的な安全衛生水準の向上を目指します。
- 4, 安全衛生活動の推進を可能とするため、組織体制の整備、責任所在の明確化を図ります。
- 5, 職場において安全衛生上の検討を充分加え、危険有害性を事前に評価するとともに、結果に応じた危険有害要因の排除を推進します。
- 6, 化学物質の安全な取り扱いを徹底します。
- 7, 社員に安全衛生確保に必要な教育・訓練を実施し、快適かつ健康的な職場の形成を進めます。
- 8, 社員の心の健康の保持増進のため、ストレスチェックなど、メンタルヘルスクアを積極的に推進します。
- 9, 安全衛生の重要性を社員に周知し、意識の向上を図ります。
- 10, 重筋作業の作業負荷を軽減し、働きやすい職場環境を形成します。
- 11, ワーク・ライフ・バランス実現に向け、働き方改革を推進します。
- 12, この方針は、外部に公表することができるものとします。

2018年4月1日現在

VOICE

高齢化という経営課題を解く「製造ラインのエルゴノミクス化」

少子高齢化の進行を受け、当社においても製造現場の高齢化対策は避けて通れません。

そこで2018年度より重点方策「快適な職場環境づくりの推進」にて、重量物の取り扱い、無理な姿勢の反復などの負荷軽減を目指す取り組みとして「エルゴノミクスを活用した作業負荷評価を実施し、重筋作業に対する負担軽減を実施する」が掲げられました。

製造ラインのエルゴノミクス化とは、「人間の動きに作業を合わせる」ことです。従来は「作業に人間の動きを合わせていた」ので逆転の発想です。



人事部
いわき
総務労政課長
小山 智弘

社会とのかかわり (1)

■ クリナップ財団と給付型奨学金制度

東日本大震災に被災し、操業停止の危機を体験したクリナップは、地域の方々に助けていただいたことに対する感謝の気持ちを社会に還元するため、東日本大震災の翌2012年12月に福島県内における被災地復興支援の一環として「公益財団法人クリナップ財団」の設立に寄与しました。

同財団の主な事業内容として奨学支援を行っており、福島県出身者で福島県内の大学、高等専門学校などに進学する、学業優秀で向学心旺盛ながら、経済的な理由により修学が困難な学生に対する給付型奨学金制度を設けています。

2018年度は40名に奨学金を給付しています。



授与式に参加した学生
将来に期待です

■ レスリング部

クリナップは1992年に「クリナップレスリング部」を創部し、スポーツ振興の一環とし企業スポーツの運営に取り組んできました。



表彰台に立つ皆川選手
(左から3番目)と
プレゼンターの執行役員
先崎 斎(左から4番目)

現在も国内外で注目される選手たちが活躍しています。

2018年6月14-17日に、東京・駒沢体育館で行われたレスリング明治杯全日本選抜選手権で、レスリング部の皆川博恵選手が優勝し、明治杯7連覇を達成しました。また4月に入部した木下貴輪選手、塩川貴太選手も見事3位に入賞しました。

■ 「クリ夫のパン屋」オープン1周年!

クリナップの特例子会社であるクリナップハートフル株式会社は、心豊かな食住文化を創るとともに、新たな障がい者雇用を創出するため、2016年11月1日にベーカリーショップ「クリ夫のパン屋」をオープンし、障がい者が働ける場を設けました。

店舗はクリナップの創業に由来した地(荒川区西日暮里)に新設し、菓子パン、惣菜パン、サンド類など、常時40数種類の商品を店内で焼き上げ、販売しています。

オープン1周年となる2017年11月1-2日には、焼き立てワッフルや特製アップルパイなどを特別販売する記念イベントを実施し、多くのお客さまで賑わいました。



クリ夫のパン屋は1周年

VOICE

創立10周年を迎えたクリナップハートフル

クリナップハートフル株式会社の社名は「クリナップグループにおける各種CSR(企業の社会的責任)活動を象徴する企業として、社会に対し心のこもった価値を創造していく」という経営理念に由来します。2008年3月に事業を開始し、2018年3月9日の創立10周年には勤続10年の障がいを持つ社員4人が表彰されました。

社員は60名で、うち障がい者は39名(2018年6月1日現在)です。業務としては、クリナップの給与計算、クリナップ本社の清掃などを行う施設管理、グループ社員の名刺作成や各種データ入力などを行う事業推進、そして「クリ夫のパン屋」を運営するフードサービス。2017年4月には福島県いわき市に「いわき事業所」を開設しました。



クリナップ
ハートフル株式会社
管理部長
矢吹 克彦

社会とのかかわり (2)

■ 「弁当の日」 応援プロジェクト

「食」を通じて、いのちや生活の大切さを学ぶのが「弁当の日」です。「弁当の日」は2001年、香川県の滝宮小学校の竹下和男校長（当時）がはじめました。「お弁当」にかかわる献立作り、買い出し、調理、弁当詰めから、片付けまでを子ども自身が行い、親も、先生もその出来映えを批評も評価もしないという約束です。

2018年4月現在、「弁当の日」実施校は全国で2,000校を超えるまでの広がりを見せています。クリナップもプロジェクトに参加し、2012年から本社近隣の荒川区立第六日暮里小学校の取り組みを支援してきました。



■ 料理アカデミー

おいしい暮らし研究所が中心となって、大学の寄付講座として提供したものに「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」があります。文化、健康、食育などをテーマに、講義と料理実習を行うもので、参加者からは「中味の濃い、質の高い諸先生方のお話が聴けて、楽しい半年間でした」、「料理だけでなく講義の勉強は久しぶりに新鮮で役に立ち、楽しく思った」などの声が寄せられました。

講義や実習の内容は、「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー web分校」として公開しています。



■ おいしい暮らし研究所と「キッチン白書2018」

キッチンを通じた、楽しいふれあいの場づくりのために、食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行っている研究部門が「おいしい暮らし研究所」です。

「キッチン白書2018」では「食の場（食事をする部屋、食事をする場所、食卓を囲む状況）」について調査し、分析結果を公開しました。男性が全世代で「ゆったり・のんびりできる空間」を支持したのに対し、女性は60代を除く全世代で「家族が集まる空間」を支持しており、男女の「食の場」に求める理想の違いが浮彫りとなりました。



■ 食育教室

クリナップは、料理をつくり、そして食べるという当たり前に思えることを、後世に伝えようと、全国のショールームを活用して食育活動を推進してきました。この取り組みによって、クリナップは2015年9月に農林水産省主催「第3回食と農林漁業の食育優良活動表彰」の企業部門にて『消費・安全局長賞』を受賞しました。

また全国のショールームアドバイザーの多くが、NPO日本食育インストラクター協会が認定する「食育インストラクター」の資格を取得しています。



VOICE

おいしい暮らし研究所はキッチンの総合シンクタンク

おいしい暮らし研究所は、生活者の食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行うクリナップの社内研究機関です。シンクタンク、キュレーター、そしてプロデューサーとして多彩な活動を展開しており、「キッチン白書」の年1回発行、キッチンタウン・東京のセミナーやイベントに対するサポート、「料理アカデミー」、認知症予防プログラム「いきいきキッチン！料理で脳のアンチエイジング」、5～10歳の子どもを対象にした「わくわくキッチン！たべものへんしんきょうじつ」などをプロデュースしてきました。

この他に「おいしい暮らし研究所」というECサイトへのコンテンツ提供、および日本最大級のサロネーゼ情報サイト「Dreamia Club」の運営も行っています。



開発本部
おいしい暮らし
研究所長
手塚 佐恵子

社会とのかかわり (3)

■ 夏休みに小学生を工場見学会に招待

クリナップは2017年8月4日に生産拠点のある福島県いわき市内の小学生を招待し、工場見学会を実施しました。

今回の見学会では生産本部にほど近い、いわき市立四倉小学校の5年生を招待し、ステンレスをはじめとするさまざまな素材の加工や組み立ての様子を見学しました。特に、鹿島システム工場では、キャビネットを生産する工程を学習しました。

クリナップでは小学生を対象とした工場見学会は初めてで、児童からは『将来自分もクリナップで働きたい』と嬉しい言葉も飛び交い、短い時間でしたが子どもたちの夏休みの良い思い出づくりにもなりました。



生産工程を真剣な表情で見学する小学生

■ ごんごまつりに協賛

クリナップは、2017年8月5-6日に開催された第39回「津山納涼ごんごまつり」に協賛しています。初日に岡山工場、津山営業所、鳥取営業所から過去最多の50名が参加し、おどり連を組みました。

参加メンバーは6月中旬から毎週2日の練習を行い、当日は津山市内の大通りを200メートルに渡り踊り歩きました。

今回は4回目の参加であり、メンバーの踊りの習熟度も上がってごんご(かっぱ)になりきって踊ることができましたが、審査結果は参加賞。メンバーは「来年は100名のおどり連で大賞受賞を目指す」と抱負を語っていました。



クリナップここにあり
精鋭たちが集結いざ出陣

■ 工場周辺での清掃活動

クリナップは、事業所周辺の清掃活動を毎年、定期的に行っています。特に、常磐鹿島工業団地内の工場は、春と秋の工業団地内一斉清掃活動に毎年欠かさず参加しています。

この活動は地域社会との環境コミュニケーション活動の一環として位置づけており、今後も積極的に取り組んでいきます。



工業団地内での清掃活動

■ 工場での献血で 日本赤十字社銀色有功章を受章

いわき部門は、以前より福島県赤十字献血センターに協力し、工場での献血活動を行っています。これまでに約710名が献血に協力しています。2016年に日本赤十字社銀色有功章を受章しました。



毎年5月と11月に献血協力

■ いわきサンシャインマラソン協賛

福島県いわき市に生産拠点を構える企業として、毎年2月に開催される市民マラソン大会に特別協賛しています。

いわきサンシャインマラソンは、いわき陸上競技場や小名浜港アクアマリンパークなどを舞台に、小学1年生からエントリーできる2kmの親子マラソンから、トップ選手が参加するフルマラソンまでの5種目を揃えた市民大会で、2018年は過去最多となる1万1,122人がエントリーし、フルマラソンには約7千人が出場しました。

今年で9目を迎えたいわきサンシャインマラソンは、「日本の復興を「いわき」から」を掲げ、2012年からは復興祈念大会として開催されています。



スターターを務める
常務執行役員
生産本部副本部長
渡辺 敬三(左)

資材調達

■ 購買基本方針

お客さまに満足していただける商品とサービスを提供し続けるため、クリナップでは公平で自由な競争原理に立ち、より良い取引先さまと相互理解を深め信頼関係を大切にしていきます。

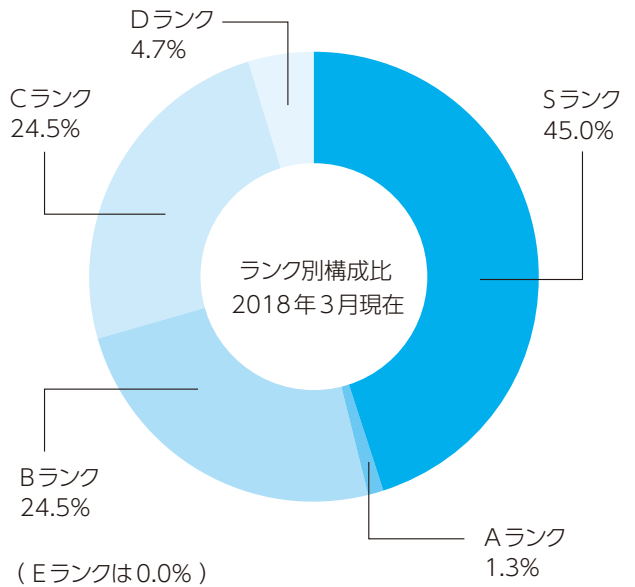
取引先さまの選定は、品質・価格・納期・技術開発力・安定供給力などの総合的な評価と適正な手続きにより行います。

■ 環境に配慮した資材調達

資材調達では、グリーン調達のアンケート調査を行い、必要な場合は現地調査も行います。その内容は次ページ(p22)に示していますが、環境への取り組み状況、経営者の責任意識を調査して、SからEまでの6ランクに分けています。そして取引先さまをCランク以上に維持できるようD、Eランク企業の格上げ支援活動をしています。

具体的な指標としては各種の認証資格があり、ISO14001の認証取得企業は高く評価しています。このような認証ガイドラインとしてよく知られているものとして環境省が策定した「エコアクション21」があり、この認証を取得した企業も高く評価しています。

・環境取組企業ランク構成比



購買基本方針

■ 品質

キッチン・洗面化粧台・システムバスルームを主とする生産活動に於いて、顧客満足の上昇に努めるべく、取引先さまにも品質保証体制を確立していただき、品質維持・改善活動を継続的にお願いしております。

■ 価格

お客さまが商品価格を評価します。取引先さまから提供していただく原材料・加工品は、クリナップ商品価格に大きな影響をおよぼします。市場競争に耐えうる部品価格であることと、継続的なVE活動を互いに努力し達成します。

■ 納期

お客さまにご満足していただける納期で商品をお届けできるよう、取引先さまの納期対応と安定供給をお願いしております。また、クリナップは原材料・加工品の調達をお客さまのニーズに即応できるように、タイムリーで無駄の少ない調達（納期とロット）を基本としております。

■ 環境

製造メーカーとして環境に配慮した商品づくりに取り組み、環境負荷低減を図ることが優先課題であると認識しております。資材調達に於いても優先的に環境負荷の少ない原材料・加工品の調達に努めており、取引先さまにも協力をお願いしております。

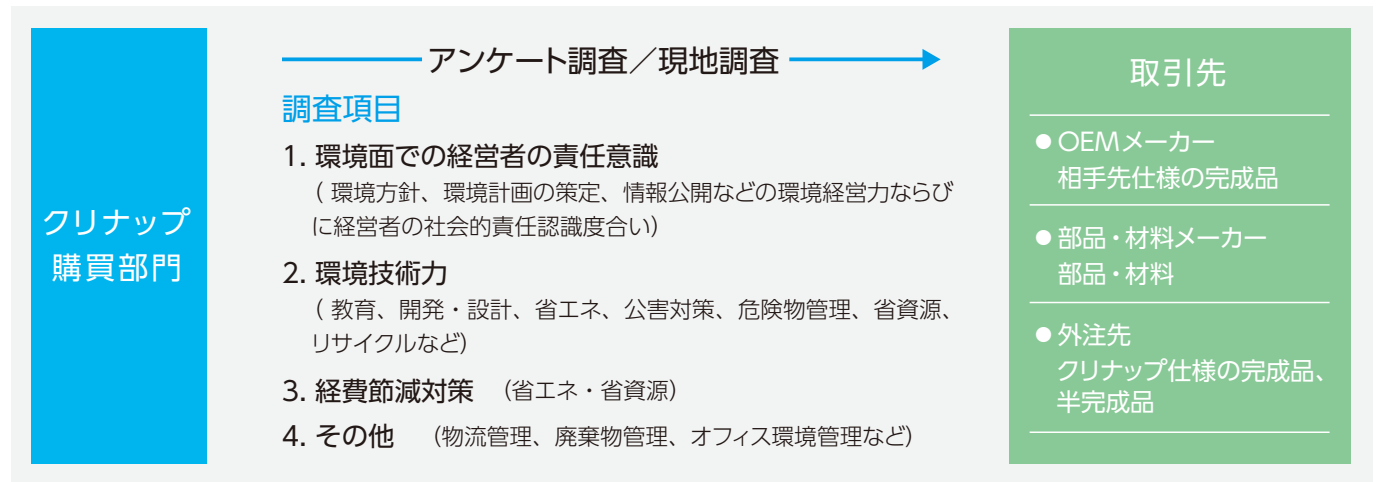
2018年4月1日現在

グリーン調達の実施

■ 環境・社会に配慮した原材料調達

資材調達活動を通じて、加工品を納入していただいている取引先さまにも環境保全活動への協力と参画をしていただくことにより、環境に配慮した商品をつくり、提供することで、循環型社会に貢献することを目的としてグリーン調達活動を行っています。

2007年度から、取引先さまの環境保全活動への取り組みレベルを下記のような指標でランク分けし、現在すべての取引先さまがCランク以上になるように支援活動を行っています。



↓ 調査結果集計

グリーン調達の指標	ランク	環境取組企業レベル	意味
	S	高度レベル	ISO14001 認証取得企業であり、環境保全活動が投資を含めて積極的に行われている企業
A	上級管理レベル	ISO14001 認証取得企業であり、環境保全活動が積極的に行われている企業	
B	中級管理レベル	管理体制はおおむね構築されており、省エネ・省資源活動を積極的に取り組んでいる企業	
C	初級管理レベル	管理体制はやや構築されており、可能な範囲で省エネ・省資源活動に取り組んでいる企業	
D	指導レベル	管理体制はやや構築されているが、省エネ・省資源活動の取り組みが遅れている企業	
E	重点的指導レベル	管理体制の構築、および環境保全活動が一般的に遅れている企業	

↓ クリナップによる取引先さまD、Eランク企業の格上げ支援活動
(環境活動の具体例を提示し、意識づけを行う)

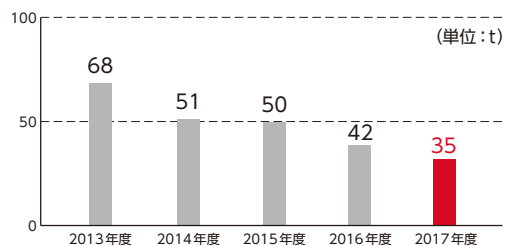
取引先さまCランク以上を維持する

■ 有害化学物質に対する取り組み

シックハウスの原因になる室内空気汚染物質は、トルエン、キシレン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、エチルベンゼンなどです。

クリナップの製造プロセスでは、2017年度は35トンを取り扱いました。今後も安全性を配慮した材料を採用していきます。

■ 室内空気汚染物質取扱量推移グラフ



クリナップのモノづくり(1)

■ クリナップの目指すモノづくり

座卓という家族の団らんを象徴する製品から始まったクリナップは、革新的なアイデアや技術によって生活者の暮らしに寄り添ってきました。

これからもクリナップは“キッチンの専門メーカー”として、キッチンの役割と大切さを考え、「キッチンといえばクリナップ」と思っただけのように努力し続けます。

■ システムキッチンの名付け親

1973年にクリナップは日本ではじめて「システムキッチン」という商品アイデアを生み出し、発売しました。この「システムキッチン」という呼称の名付け親はクリナップでした。

いまでは日本のキッチンを表す普通名詞として一般化しています。



日本初のシステムキッチン

■ 業界初を目指す商品開発

クリナップは業界をリードする多くの商品を生み出してきました。1983年には日本独自の簡易施工型システムキッチン「クリンレディ」を発売。1999年に「フロアコンテナ」搭載のシステムキッチンを発売しました。これは足元のデッドスペースを有効活用し、大容量の料理道具をすっきり収納するもので、業界標準の商品



初代クリンレディ

形態になりました。2005年には静かさと清潔を追求した「美・サイレントシンク」を発売。2007年にはレンジフードのフィルターを自動洗浄する「洗エールレンジフード」を発売しました。

2015年にはシンク内のゴミの広がりや汚れを最小限にする「流レールシンク」を発売し、それまでのシンクの常識を一変しました。この技術は洗面化粧台の「流レールボール」やシステムキッチンの「人工大理石」シンクにも使われています。

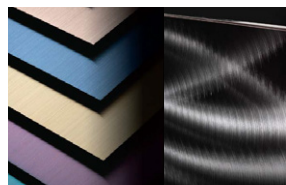


1999年発売の「フロアコンテナ」搭載のシステムキッチン

■ 機能やデザインを支える素材と加工技術

クリナップ独自の素材と加工技術が、さまざまな商品機能やデザインを支えています。なかでもステンレスの化学発色(INCO法)による高度な表面処理加工技術により高い意匠性を実現しています。

また、親水性コーティングの技術、浴室や洗面ボールに応用するアクリル系人工大理石の成型技術は高く評価されています。



ステンレス加工・加飾技術

VOICE

「暮らしの真ん中」を意味する「CENTRO」の開発

これまで「壁付けキッチン」が常識でしたが、この数年で家族とのコミュニケーションが取れる対面スタイルのキッチンの人気が高まっています。このニーズに応えるために開発されたのが「CENTRO」です。

従来のS.S.では、調理に専念するキッチンを提案し続けてきましたが、「CENTRO」は暮らしの真ん中にあるキッチンをテーマとして、ゼロから設計を見直し、機能や利便性だけでなく、LDK空間にあって違和感のない、かつ、存在感のあるデザインに仕上げました。



開発本部
開発1部
キッチン開発課長
長坂 史仁

クリナップのモノづくり (2)

■ ステンレスにこだわる理由

クリナップがキッチンの材料としてステンレスを使う理由は、ステンレスが次のような特長を持っているからです。

- 特長その1 サビにくく、熱や薬品にも強い。
- 特長その2 お手入れ簡単。未永く使える耐久性。
- 特長その3 有害なホルムアルデヒドが発生しない。
- 特長その4 リサイクル率が80%以上と高く、地球にやさしい。

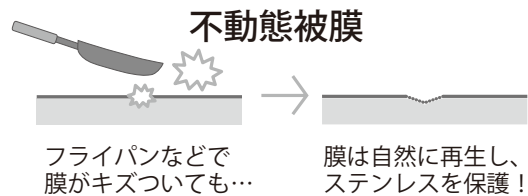
クリナップのステンレスシステムキッチン、この特長を最大限に活かした製品です。



■ ステンレスがサビにくい理由

ステンレスは鉄にクロムなどの金属を混ぜ合わせた合金です。鉄だけでは腐食してしまいますが、ステンレスに含まれているクロムが空気中の酸素と結びついて「不動態被膜」というバリアーをつくれます。

この「不動態被膜」によって塗装などをしなくてもサビにくい強い金属になるのです。また「不動態被膜」は表面が傷ついても自然に再生するので、ステンレスは耐久性が高い素材として評価されています。



■ クラフツマンワークトップ

「クラフツマンワークトップ」は、丈夫な1.2mm厚のステンレスを使用し、熟練の溶接工が一点一点手作業で仕上げています。

本格調理にこだわる人のためにデザイン、作業性、清掃性、すべてを兼ね備えた究極のシンクです。1段低くなったデッキ部は、力を入れた作業をラクな姿勢で行えるように設計されています。

また、シンク全体が扉面よりセリ出しているため、体重をかけやすく長時間の立ち仕事もラクになります。



■ ステンレスキャビネット

システムキッチン、洗面化粧台のキャビネットにステンレスを採用しています。サビに強く、長寿命、そしてエコなステンレスの特長を活かしています。



システムキッチン ステンレスキャビネット



洗面化粧台
ステンレスキャビネット

業界初のアイデアと技術 (1)

■ フロアコンテナ

■ キッチンの新常識「フロアコンテナ」

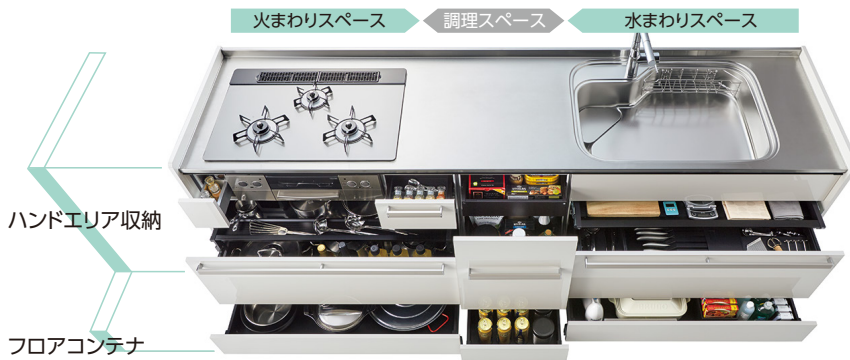
クリナップが最初に開発し、日本のキッチンを変えたのがこの「フロアコンテナ」です。

以前のキッチン収納は「観音開き」や「引き戸」が主流でした。ものをしまっただけでなく使い勝手のよいキャビネットとして、さまざまなキッチンアイテムを使用頻度と使う場所によって分類収納する形態が「フロアコンテナ」です。

■ 人間工学に基づいたキャビネット思想

クリナップのフロアキャビネットは人間工学に基づき、よく使うものは「ハンドエリア」に、使用頻度が低いものは「フロアコンテナ」に収納します。また、加熱・切る・洗うなどの作業別に必要なアイテムはキッチンのスペース別に分類し、無駄なスペース、無駄な動きが少ないので体への負担も軽減されます。

たとえばシンクキャビネットの上部は「ハンドエリア収納」スペースになっており、ボールやザル、包丁など使用頻度の高い調理器具を収納し、下段のフロアコンテナはキッチンのお掃除用品や日用品のストックなどを効率よく収納できます。



■ フロアコンテナ

足元のデッドスペースを有効活用するために開発された収納です。置き場所に困りがちなストック品や使用頻度の低い道具をスッキリと収納できます。



背の高いストック品も立てながらたっぷり収納することができます。



フロアコンテナの下には適度なすき間があるので、キッチンマットが使用できます。



前板の下部はアルミ製なので衝撃や薬品に強く、床の掃除も気兼ねなくできます。



扉の裏側に、ラップや小瓶の収納に便利な小物ポケットを付けました。

■ 使いやすく、取りやすくするための工夫

■ サイレントレール

引き出しが静かに閉まるダンパー機構を搭載しています。閉まるときの衝撃を和らげ、静かに閉まり収納物へのショックを抑えます。



■ フルエクステンションレール

大容量で上からサッと出し入れできます。

奥行きすべてを引き出せるので、奥のものも簡単に出し入れできます。



業界初のアイデアと技術 (2)

■ 流レール シンク

流レール シンク

レールがキレイをお手伝い
(特許・意匠登録済み)

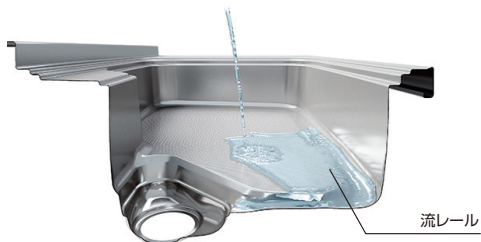
シンクを流れる水を科学して誕生した「流レールシンク」は、調理中の野菜洗いや、後片付けの食器洗いの水の力で、シンクの中のゴミをどんどん排水口に向けて流してくれる、おどろきの新機能シンクです。



■ シンクのキレイをお手伝い

■ 新発想の「流レール」が生み出す水流

お料理中などに使う水が、ゴミや汚れを手前の「流レール」に集めながら流れます。「流レール」に入ったゴミは水流に押されて排水口に集まるしくみです。調理中からシンクをキレイに保つ便利な機能です。

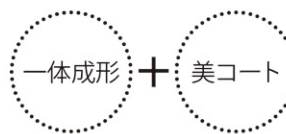


■ 「クリン網カゴ」も、継ぎ目のない一体成形

ゴミを受けとめ、汚れがちな網カゴも、もちろんステンレスの一体成形です。シンクや排水口同様に美コートが施されているので、汚れを落としやすく、とっても清潔です。

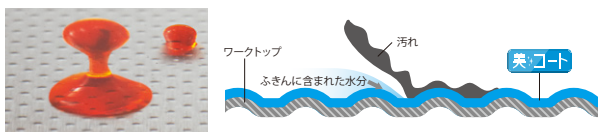


とっても
クリン+排水口



■ 美コート (親水性のセラミック系特殊コーティング)

水に馴染みやすい親水性のセラミック系特殊コーティングが美コートです。汚れの下に水が入り込み、汚れを浮かします。油汚れ、水アカなどの落ちにくい汚れも落としやすくなりました。



※美コート (親水性のセラミック系特殊コーティング) は当社試験条件で10年相当の耐久性を確認しております。

油汚れの水洗い比較

左: 実際のご家庭でお手入れをせずに1週間使用したクリンプレート

右: 油汚れを水洗いしたクリン網カゴ



シンク全体をカバー

排水口部分まで含めて全面に美コート加工。シンク全体を美しく保ちます。



■ シンクと継ぎ目がないから清潔な排水口

汚れやすい排水口をシンクと一体成形、継ぎ目がないのでお掃除がスムーズです。

■ クリンコーナー (OPTION)

流レールシンクの排水口にジャストフィットするクリンコーナー、ステンレス製+「美コート」で汚れを落としやすく、簡単なお手入れでいつもキレイです。したたり落ちる汚れた水分は、そのまま排水口に入るのでシンクに広がりません。

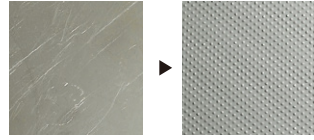


業界初のアイデアと技術 (3)

■ キズがつきにくく、目立ちにくい

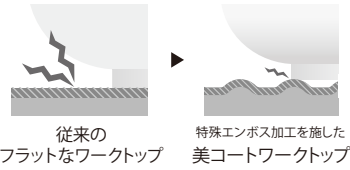
■ 特殊エンボス加工

シンク表面にエンボス加工を施すことにより、キズがつきにくく、キズがついても目立ちにくくなりました。



※当社従来品のシンクとの比較

シンク表面の特殊エンボス加工が、食器などとシンクが接する面を減少させます。こすれキズがつきにくく、目立ちにくくしています。



■ お手入れ簡単

■ クリンラック

高さを変えられる、便利な洗剤ラックです。洗い物やシンクのお掃除の時は高い位置へ、シンクを広々使えるようになります。ラックの底面は外せるので、お掃除も簡単です。



継ぎ目が多く、汚れがちな洗剤ラックも、サッと外せて分解して洗えるのでお手入れラクラク。



【従来の洗剤ラック】

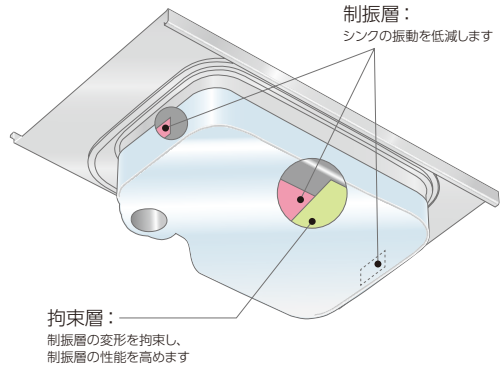
縦横のワイヤーがクロスし重なった部分は、汚れがたまりやすく、お手入れしにくい構造です。

【クリンラック】

クロスした部分が外せる構造なので、スポンジで簡単にお手入れできます。

■ 水音が静か

シンク裏の底面だけでなく側面にまで広がった制振構造。水はね音などが抑えられますので会話を妨げられることはありません。



電話のレベル	70dB	
騒がしい事務所の中 普通の会話	60dB	従来のシンク
普通の事務所の中	50dB	
図書館の中	40dB	流レールシンク
柱時計の振り子 ささやき声	35dB	サイレントシャワー 水栓の場合
	30dB	

シャワー水栓から出る水道水がシンク表面にあたる音は、約60dB^{*1}の騒音を立てていた従来のシンクに対して約40dB^{*2}という静かさです。

※1: 当社試験条件による数値です。(シャワー水量：10ℓ/分、500Hzでの比較) シャワー水栓から出る水道水がシンク表面にあたる音を測定しています。
※2: 当社のシンクでの比較です。

■ 美サイレントシンク

美+サイレント シンク

(意匠登録済・特許登録済)



■ クリンプレート

ヌルつきやすい排水口プレートもステンレス製なので、お手入れが簡単です。シンクの表面と同様の美コートが施されているので、汚れがつきにくく、スッキリ落とせます。



美コートなし 美コートあり

※実際のご家庭で
お手入れをせず
1週間使用したク
リンプレート

■ 排水口

浅型の排水口なので、毎日手軽にお掃除できます。トラップ内の「防臭パイプ」が簡単に外せる新構造です。スポンジでサッと洗えます。



業界初のアイデアと技術 (4)

■ 洗エール レンジフード

ファンフィルターが自動で 洗エール レンジフード

レンジフードのフィルターの油汚れを落とすのは非常に大変です。洗エールレンジフードなら、ボタン1つでフィルターとファンをまるごと自動洗浄します。お掃除の悩みを解決し、快適なキッチンワークを演出します。



GOOD DESIGN
AWARD 2013

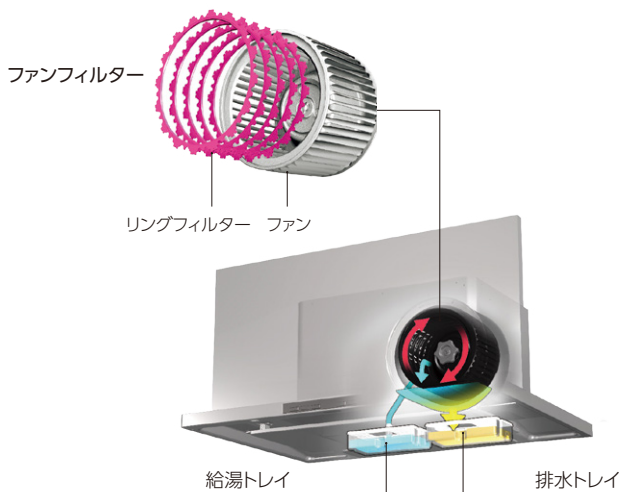


省エネ・節約・環境配慮などの観点から優れた商品として、クリナップが特にお勧めする推奨機器のマークです。

■ 洗浄機能の進化

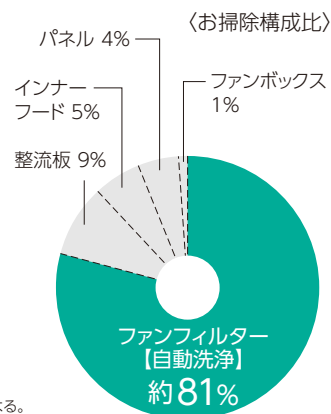
■ フィルターとファンをまるごと自動洗浄

フィルターをファンと一体化させた新構造のファンフィルターをお湯で漬け置き洗います。お湯を掻き上げる動作によって生じる水流を繰り返し衝突させることで汚れを除去します。排水トレイに溜まった排水を捨てます。



■ 新構造のファンフィルターでラクラクお掃除

フィルターとファンを一体化させた新構造のファンフィルターを搭載、ファンフィルターはレンジフード内の油煙の流れをスムーズにし、油汚れを効率よく集めます。集めた油汚れは自動洗浄でラクラクお掃除、洗エールレンジフードは、レンジフード内の汚れの約8割*を自動で洗浄できます。 *メーカー試験条件による。



■ 約10年間、自動で洗エール

給湯トレーにお湯(40~45°C)を入れて本体にセット、洗浄ボタンを押すとファンフィルターに集めた油汚れを自動洗浄します。2カ月に1度の洗浄で約10年間ファンフィルターを取り外さずにお掃除が可能です。

*10年間は、中運転での換気を1日あたり5時間運転させた場合の換気風量から算出した値です。調理状況や使用環境でも差が出ます。

■ 使用水量の比較

洗エールレンジフードの自動洗浄は、“ラクラク”だけではありません。1回の使用水量は、約0.65ℓです。一般的なフィルターの手洗いと比較すると大幅な節水を実現しました。

2か月間のお掃除比較	お掃除時間の比較	使用水量の比較
一般的なフィルター	[手洗いの場合] 約50分×2回 	約28ℓ ×2回
洗エールレンジフード	[洗エールの場合] 約10分×1回 自動洗浄約10分 ※お客様の作業は給湯・排水処理とボタン操作のみとなります。	約0.65 ℓ
	▼ 2か月で約90分短縮	▼ 2か月で約55ℓも節水

*当社検証比(月に一度手洗いをした場合と2か月に一度洗エールレンジフードの自動洗浄を行った場合の実験データ)

業界初のアイデアと技術 (5)

床夏シャワー



■ 浴室内の空気も同時にあたためる

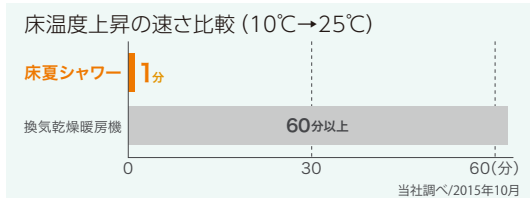
床にまかれたシャワーのお湯が蒸気となって浴室全体に充滿して、浴室内もあたためます。寒い時期の入浴事故原因のひとつであるヒートショック*2の心配も低減します。

※2暖かい部屋から急に、寒い浴室や脱衣室に入ること、血圧の急激な変化と心拍数の増加を伴い、立ちくらみや転倒、溺死に至るケースもあります。



■ コストもお得！家計にやさしい設計

他の暖房機器と比較して、短時間で浴室をあたためます。



※1 床夏シャワーの1分について

床夏シャワーのスイッチを押し、配管の残り水を排水後、水がお湯になってからシャワーの散水時間が1分です。配管の残り水の排水時間はご家庭の給湯器の設置条件により異なります。

※外気温10℃、1坪用1616型の条件で試験を実施、当社商品での試験データです(当社調べ/2015年10月)。ご使用の環境、状況により上記の測定値とは異なる場合があります。

■ 浴室への一歩目からあたたかい床夏シャワー

床に向かって一気に噴出するお湯のシャワーが、わずか1分*1で床面の温度を25℃まで上昇させて、浴室を足元からあたためます。



操作は簡単。入浴前に脱衣所で、スイッチを押すだけ。

■ ワイド散湯で、より効率的にあたためます

従来よりパワーアップしたワイド散湯で、散湯範囲が拡大、より広く床面を温めます。



性能アップ
床温度+5℃

■ 床夏シャワーの開発

日本国内の入浴中の死亡事故は年間約19,000人と推測されており、この10年間で約7割増加しました。その9割が65歳以上であり、超高齢化社会である日本において大きな社会問題となっています。

クリナップの床夏シャワーは、この死亡事故の原因の一つである「冷たい床」を解決するものです。

床夏シャワーの開発で、もっともたいへんだったのはノズルの製作でした。実験で穴の一つからお湯を飛ばして、床に着いたところをマーキングします。次の穴でもまた同じことをします。これをノズルの何十個もある穴の数だけ繰り返すという地道な作業を行って理想のノズルに辿り着いたのです。

床夏シャワーの使用条件

●給湯器/ガス給湯器(給湯温度が設定可能なタイプ):16号以上/石油給湯器(給湯温度が設定可能なタイプ):34.9kW(30,000kcal/h)/電気温水器(1℃刻みに給湯温度設定可能なタイプを推奨) ●適用給湯圧:0.1~0.75MPa ●使用水量:温度が35℃に達してから1分(約9ℓ) ●適用水質:上水道(井戸水、温泉水などは使用不可) ●給湯温度:40℃~45℃に設定(作動温度35℃~50℃) ●給湯温度を設定できない給湯器をご利用の場合:「サーモ仕様配管」を設定してください。●電気温水器、エコキュートでは高圧タイプをおすすめします。●2階以上の設置は不可となります。

業界初のアイデアと技術 (6)

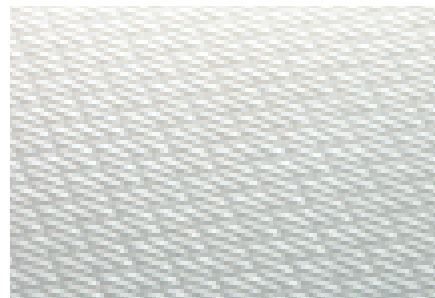
足ピタフロア



濡れていてもすべりにくい「足ピタ」パターン

浴室の床は濡れており、すべりやすいものです。とくに高齢者は転倒に気をつけなくてはなりません。そんな心配を解決したのが、クリナップの「足ピタフロア」です。

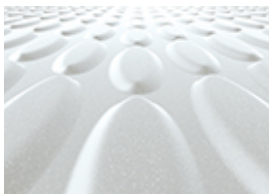
床表面の微細な凹凸が、濡れていても足裏に密着します。すべりにくく、足裏で床をつかむことができます。この機能は、特殊なパターン加工により実現しました。



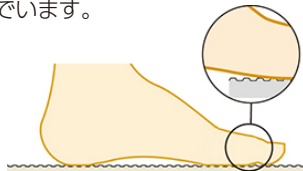
独自の素材や微細な凹凸で、足裏を床に密着させます

すべりにくさの理由は、接触面積と表面張力

足ピタフロアがすべりにくい理由は、特殊なパターンの効果です。足裏と床の接触面積を拡大してホールド性を高めています。また床表面の微細な凹凸による水の表面張力の働きで、足裏を引き寄せ、すべり止め効果を生んでいます。



フロア拡大写真



溝の深さが従来の1/3(当社比)しかないので、足裏の接触面積が広がり、すべりにくくなりました

お手入れ簡単で傷つきにくく、キレイが長持ち

洗いやすさと水切れを両立したフロア

床の溝が浅く緩やかな形状なので、汚れが溜まりづらくお手入れも簡単です。水切れの良さにも配慮しました。フロアの隅が丸いので、お手入れしやすい形状であり、翌日に水滴が残りにくく、乾きやすいフロアです。

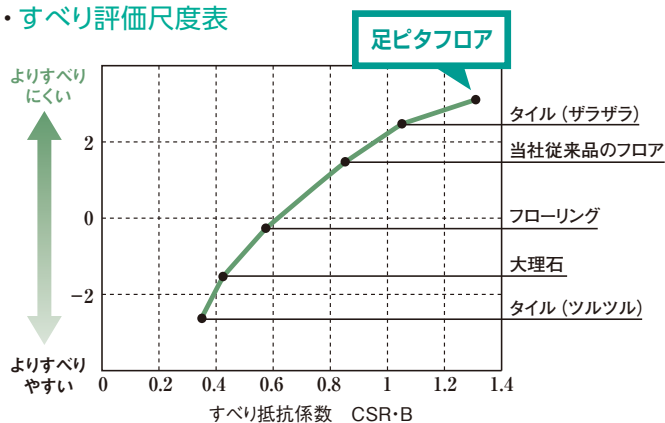


翌日に水滴が残りにくく、乾きやすい床形状です



フロアの隅が丸く立ち上がっているため、お手入れが簡単です

すべり評価尺度表



※耐滑り性試験(OY-PSM)で比較
※この評価尺度は基準値でなく目安です

当社調べ

一般的な床の3倍の硬さで、傷や汚れがつきにくい

足ピタフロアの素材は、硬質なアクリル系人工大理石で、傷からフロアを守ります。凹凸のある形状のため、傷が目立ちにくいのが特長です。

表面硬度	数値	説明
アクリストンのフロア	9H	アクリストンフロアの表面硬度は鉛筆の9Hに相当し、床を傷から守ります
FRPのフロア	2-3H	

※Hの数値が大きいほど、硬いことを示します。

当社調べ

業界初のアイデアと技術 (7)

■ 流レールボール

レールがキレイをお手伝い

流レール ボール

(特許出願中)

GOOD DESIGN
AWARD 2016

レールがキレイをお手伝い

流レール ボール

GOOD DESIGN
AWARD 2016



■ 「流レール」という独自のアイデア

システムキッチンに搭載し好評の「流レールシンク」のアイデアを採用した、新発想の洗面ボールが「流レールボール」です。

手洗いや洗顔などの日常的に使用する水で汚れを流し、次に使う人も気持ちよく使えるのが特長です。一般的なボールは底面に落ちた水が広がらずに排水口へと流れるすり鉢形状になっているため、水の届かない外周部分、特に人に近い手前側に汚れが残ってしまっていました。

「流レールボール」は今までにない凸型の底面形状が、水を底面全体に広げることで汚れを流すことができる洗面ボールです。普段使う水を利用することで、意識をしなくても洗面ボールをキレイな状態に保つことができるため、次に使う人も快適に使うことができます。底面についた髪の毛や泡が残らないことで更なる汚れを抑制でき、お手入れの手間も軽減しています。

■ 洗面ボール中央を高くする逆転の発想

ボール周囲の「流レール」が髪の毛や泡を集めて排水口に導きます。さらに中央を高くするという逆転の発想で「流レール」への水の流れをつくりボール全体を汚れにくくします。



■ 比べると一目瞭然

NEW



流レールボールは、ボールの全体に水が行き届き、「流レール」に髪の毛や泡を集めて排水口へ導きます。

従来



従来のボールは、手前や隅に水が行き届かず、髪の毛や泡が残ります。

■ 人工大理石を採用

ボールの材質は人工大理石を採用し、意匠性を向上しました。硬いものを落としても割れにくい素材です。

環境方針

■ 基本的な考え方

クリナップでは企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと地球環境との共生を図りながら、持続可能な社会の実現のために、CO₂排出量や廃棄物の削減、化学物質による汚染防止対策、環境配慮型商品の開発など課題を挙げて環境活動に取り組んでいます。

すべての生産工場においてISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを構築、運用しています。

また、環境方針を制定し、全従業員に浸透させるとともに各部署が方針に基づいた目標を設定し、環境活動を推進しています。

■ 環境方針

環境方針

1. 事業活動および製品づくりにおいて、環境に負荷を与える環境側面を常に認識し、環境負荷の低減に向け自主的かつ積極的に環境目標を設定およびレビューし、技術的および経済的に対応可能な範囲で実施し維持することで、継続的改善を行います。
2. 関連する環境法規および当社で同意するその他の要求事項を順守し、汚染の予防を図り、環境保全の向上を行います。
3. 環境に配慮した製品づくりを行います。
省エネ機器の導入、室内空気汚染物質の低減、リデュース・リユース・リサイクルの推進、グリーン調達の積極的な活動と促進を行い、環境への負荷が少なく安全に配慮した製品づくりを行います。
4. 事業活動の中での環境負荷の低減を行います。
CO₂排出量・廃棄物の削減、省資源活動の推進を行い、常に環境にやさしい事業活動を行います。
5. 全従業員の環境保全意識の向上を図り実効性の高い環境活動を実践するため、環境教育、環境啓蒙活動を行います。
6. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実に向け、社会・環境報告書の発信および地域奉仕活動を行います。

2018年4月1日現在

VOICE

持続可能な社会を目指して

企業の長期的成長のためには、ESGが示す3つの観点、E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)、これらの課題への取り組みが必要です。

環境面では、気候変動への対応、省エネルギーの推進、リサイクルなどの取り組みを通じて、持続可能な社会の形成を目指していきます。

そのためには、全従業員の環境保全に対する更なる意識の向上、実践が不可欠です。環境活動を通じ社会に貢献していくことが重要です。



CS 推進本部
品質環境保証部長
兼
品質保証課長
卯月 知

環境保全活動推進体制

クリナップの環境保全活動に対する全社的な意思決定を行う会議体として、今後の方向性の決定や環境中期計画の進捗状況などを報告・確認する「環境保全会議」があります。

2017年度の「環境保全会議」では、幅広いテーマを審議し、「事業活動の中での環境負荷の低減」や「環境に配慮した製品づくり」を目的として下記項目に取り組んでまいりました。

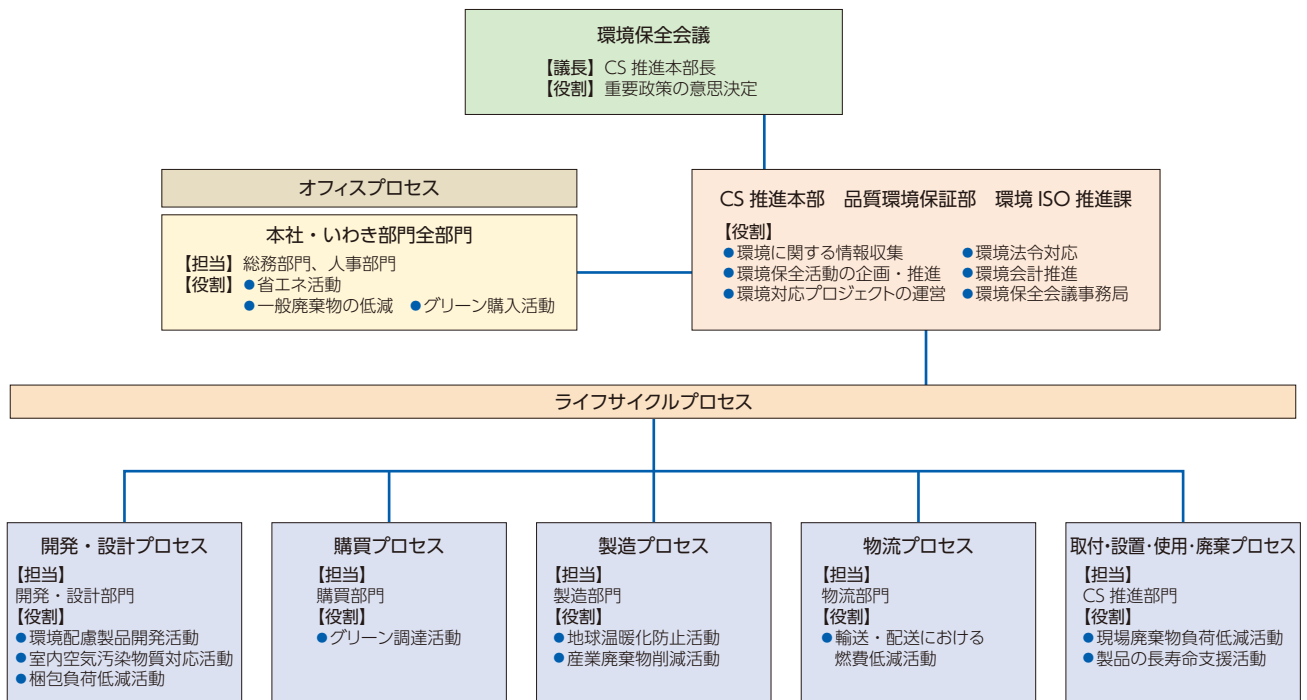
1. 「2015年版ISO移行審査」に関する審議
2. 「2017社会・環境報告書」の内容に関する審議
3. 「微量PCB処理」に関する審議
4. 「家電リサイクル」の内容に関する審議
5. 「2018年度ISO新組織体制」に関する審議

また、「環境マネジメントシステムの構築」では、さらなる監査員のレベルアップにより一層充実したシステム構築に努めてまいりました。今後の環境取り組みの課題として、

1. グループCO₂排出量の削減
2. グループ産業廃棄物の削減
3. 広域認定制度による取付・設置現場廃棄物再資源化の推進

などがあります。

今後も地球温暖化対策をはじめとする地球環境問題への対応や、環境に配慮した製品づくり、廃棄物の削減やリサイクル化を進め循環型企業を目指すなど、環境活動を通じ社会に貢献してまいります。



事業活動に伴う環境課題 (1)

クリナップの環境課題は3つの要件から導き出されます。まず第一にマテリアルバランスです。マテリアルバランスとは、事業活動に伴って投入された資源の量と、その活動によって排出された物質やCO₂の量の収支です。マテリアルバランスを知ることにより、事業活動の環境負荷を把握できます。

第二に環境関連法令です。工業製品の製造は多くの法令によって規制されており、その順守が必須です。

第三が顧客と社会から求められている課題です。この3要件から導き出されるのが、以下の5つの環境課題です。

- ① 地球温暖化防止対策
- ② 廃棄物対策
- ③ 製品の環境配慮対策
- ④ 化学物質対策
- ⑤ 製品梱包の負荷低減対策

■ マテリアルバランス

クリナップの開発から出荷までの事業活動に伴う資源投入および排出物の状況です。

ライフサイクルプロセス

IN		OUT	
開発・設計プロセス		製造プロセス	
物量指標未設定		CO ₂ 排出量	15,579 t-CO ₂ (16,480 t-CO ₂) !
購買プロセス		PRTR指定化学物質	18 t (21 t)
電気	21,955 千kWh (23,172 千kWh)	産業廃棄物排出量	8,178 t (8,613 t)
A重油	748 kℓ (825 kℓ)	金属有価物排出量	1,358 t (1,354 t)
軽油	4 kℓ (5 kℓ)	部品梱包用ダンボール	596 t (584 t)
灯油	51 kℓ (49 kℓ)	一般廃棄物排出量	33 t (35 t)
ガソリン	12 kℓ (10 kℓ)	排水量	95 千m ³ (104 千m ³)
LPG	89 千m ³ (90 千m ³)	物流プロセス	
水資源	95 千m ³ (104 千m ³)	製品出荷重量	59,841 t (46,317 t)
製品梱包用ダンボール	2,389 t (3,298 t)	CO ₂ 排出量	3,449 t-CO ₂ (3,596 t-CO ₂) !
木材	35,006 t (41,422 t)	取付・設置・使用・廃棄プロセス	
樹脂	22,154 t (25,333 t)	製品梱包材重量	2,389 t (3,298 t)
金属	12,216 t (14,391 t)		
PRTR指定化学物質	1,073 t (1,156 t)		

オフィス活動

IN		OUT	
開発・設計プロセス		本社・いわき部門オフィスプロセス	
電気	2,796 千kWh (2,746 千kWh)	CO ₂ 排出量	1,625 t-CO ₂ (1,602 t-CO ₂) !
軽油	5 kℓ (6 kℓ)	一般廃棄物排出量	14 t (16 t)
灯油	11 kℓ (13 kℓ)	書類	36 t (34 t)
ガソリン	26 kℓ (27 kℓ)	排水量	5 千m ³ (4 千m ³)
LPG	8 千m ³ (8 千m ³)		
水資源	5 千m ³ (4 千m ³)		
コピー用紙	3,271 千枚 (3,529 千枚)		

()内は2016年度 **!** 電気のCO₂排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

事業活動に伴う環境課題 (2)

■ 環境関連法令 (略称)

下記に挙げている法令はクリナップの事業活動に関連する環境法規制です。

地球温暖化対策推進法	廃棄物処理法	水質汚濁防止法
省エネルギー法	建設資材リサイクル法	浄化槽法
建築基準法	家電リサイクル法	騒音規制法、振動規制法
PRTR法 (化学物質排出把握管理促進法)	容器包装リサイクル法	悪臭防止法
消防法	グリーン購入法	自動車NOx・PM 法
毒物及び劇物取締法	PCB特別措置法	道路運送車両法
資源有効利用促進法	大気汚染防止法	オフロード法
フロン排出抑制法	土壌汚染対策法	

■ 顧客と社会から求められている環境課題

多くの企業活動は、何らかの形で環境と関わりを持っており、たくさんの資源と多くの電力を使う製造業はとくに大きな責任を担っています。クリナップもいくつかの課題を持っていますが、具体的な環境課題への取り組みとして下記の4項目をご紹介します。

1. CO₂排出量削減

温室効果ガスであるCO₂排出量の削減は世界の課題であり、クリナップが重視する環境課題です。日本では、石油・石炭・LNGなどのCO₂を排出する火力発電による電力が8割以上を占めています。製造業では多くの電力を使用するため、製造プロセスをより効率的にする努力が欠かせません。

また、自動車を用いる物流プロセスでのCO₂排出量も、より合理的なシステムにすることにより削減するように努力しています。地球温暖化対策の推進を図ることを目的としている住宅エコポイント制度にも参画しました。

2. 取付・設置現場廃棄物の削減

私たちの製品から取付・設置現場で排出される廃棄物には、梱包材のほかにも、現場寸法に合わせて切断された部材の端材、接着剤容器などがあります。これらの取付・設置現場廃棄物の処理責任は工事の元請業者さまにあります。しかし、埋立処分場が逼迫し、処理費用が高まる中で、私たちの製品から出る廃棄物を処理する方々にとって、処理負担はますます増大しています。

このような背景を受け、お客さまや取付・設置業者さまなどからは廃棄物の減量化、梱包の改善が求められています。

3. ライフサイクルアセスメント (LCA)

ライフサイクルアセスメントとは、製品やサービスに対する環境影響評価の手法を指しています。製品の製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用までの環境負荷を意識し、環境負荷の少ない製品の開発を行っています。

ステンレス材をシステムキッチンに使った「エコキャビ」はLCAの考え方に基づき、長寿命、リサイクル性などの環境性能を高めた製品です。

4. シックハウス対策

私たちの製品をご使用いただく住宅や学校、公共施設の場では、揮発性有機化学物質による室内空気汚染が関係すると思われる健康問題、いわゆる「シックハウス問題」が指摘されています。この問題に対し、厚生労働省では2000年4月より「シックハウス (室内空気汚染) 問題に関する検討会」を開催 (2018年8月現在22回目を実施) し、室内濃度指針値の策定に取り組んでいます。

このような背景を受け、お客さまからは、クリナップのシックハウス対策に対する質問や要望が多数寄せられています。

環境計画の目標と成果

● 達成 ● 未達成

方針	活動項目	単位	主幹部門	2017年度		今後の達成目標
				目標	実績	
環境に配慮した製品づくり	[CENTRO]間口255cm基本セット 製品重量および梱包重量(機器類は除く)を、 従来品より5%削減し軽量化を図る	削減率 %	開発1部	5%削減	7%削減	●
	[TIARIS]間口90cm下台のみ 製品重量および梱包重量 (ミラーキャビネット・機器類は除く)を、 従来品より5%削減し軽量化を図る	削減率 %	開発1部	5%削減	21%削減	●
	[yuasis]1616サイズ標準セット 製品重量および梱包重量(機器含む)を、 従来品より5%削減し軽量化を図る	削減率 %	開発1部	5%削減	4.9%増加	●
	特定ハウスメーカー1社のリターナブル梱包の導入を施行する	普及率 %	開発2部	ハウスメーカー 1社へ導入	1工場導入	●
事業活動の中での環境負荷の低減	製造部門の二酸化炭素排出量生産台数原単位の削減	前年比 %	製造部門	1%削減	0.8%増加	●
	物流部門の二酸化炭素排出量走行距離原単位の削減	前年比 %	物流部門	0.5%削減	0.1%増加	●
	社有車を低燃費車への切替えによる二酸化炭素排出量の削減	総量 t-CO ₂	購買部門	5.06t	5.86t	●
	本社オフィス部門の二酸化炭素排出量の削減	前年比 %	本社総務 部門	1%削減	2.9%削減	●
	いわきオフィス部門の二酸化炭素排出量の削減	前年比 %	いわき 人事部門	1%削減	3.0%増加	●
	本社オフィス部門の電力使用量の削減	前年比 %	本社総務 部門	1%削減	2.4%削減	●
	製造部門の産業廃棄物排出量生産台数原単位の削減	前年比 %	製造部門	1%削減	1.2%増加	●
	本社オフィス部門の一般廃棄物排出量の削減	前年比 %/人	本社総務 部門	1%削減	1.7%削減	●
	いわきオフィス部門の一般廃棄物排出量の削減	前年比 %	いわき 人事部門	1%削減	0.2%削減	●
	本社オフィス部門のコピー用紙の削減	前年比 %/人	本社 総務部門	1%削減	6.5%削減	●
環境コミュニケーション	地域社会とのかわわり	—	全部門	敷地周辺清掃	敷地周辺清掃	●
	環境取り組みの情報開示	—	環境保全 部門	社会・環境報告書の 発行	社会・環境報告書の発行	●

❗ 電気のCO₂排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

環境活動(1)

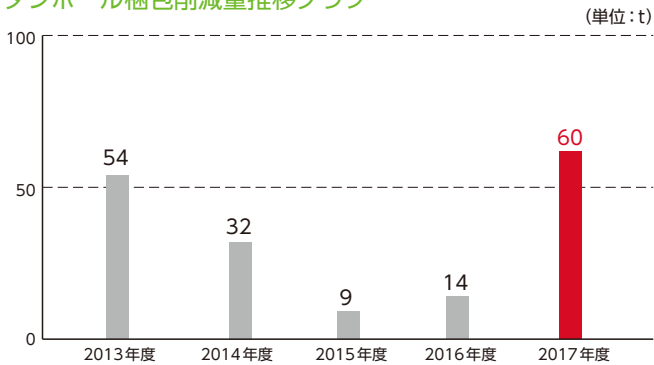
■ 省資源への取り組み「リターナブル梱包」

システムキッチンのワークトップ梱包によく使われるのは使い捨てダンボールです。しかしクリナップは、取付・設置現場での廃棄物対策として、製品納入後に回収し、何度でも繰り返し使えるように設計されたリターナブル梱包を積極的に使い、ダンボール梱包削減に取り組んできました。

2003年からハウスメーカー向けワークトップ用リターナブル梱包の全国展開を開始し、2004年に東日本地区のハウスメーカー以外の現場への導入を行い、2005年に全国展開を完了しました。

その後、リターナブル梱包が新製品の形状に適応できなくなり、2016年に新タイプのリターナブル梱包の開発を行い、導入しました。その結果、順調にダンボール梱包削減量が増えてきています。

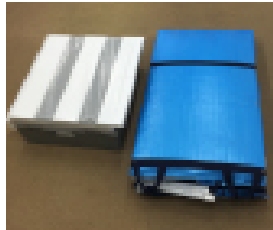
ダンボール梱包削減量推移グラフ



出荷時のリターナブル梱包



回収時のリターナブル梱包



回収したリターナブル梱包は清掃して再出荷

■ キッチン壁パネルへの「シュリンク梱包」導入

シュリンク (Shrink) とは、「収縮」という意味です。キッチン壁パネルを透明フィルムで覆い、シュリンク梱包機に通して加熱するとフィルムが縮んで製品を密封加工します。

2017年2月より導入の検討を開始し、社内試験を繰り返して品質確認を実施しましたが、フィルムの破れが発生しました。要因は、フィルムの膜厚が薄いためコストによるものと推測しました。そこで、フィルムの厚みと材質の変更を数回繰り返し、破れの問題を解決することができました。

再度、品質確認を実施した結果、新たな問題として緩衝材の破損が発生しました。今度は、緩衝材の形状を数回変更して確認を行い、ようやく求めるレベルの水準の確保をすることができました。その間の検討期間として、約1年の月日を要しました。

2018年3月に鹿島システム工場へキッチン壁パネルのシュリンク梱包機を設置し、運用を開始しました。これにより、月当たりのダンボールの削減量は30トンにおよびます。

今後は、シュリンク梱包を他製品にも導入できるように検討を行い、ダンボール梱包を更に削減する活動を行ってまいります。



シュリンク梱包機

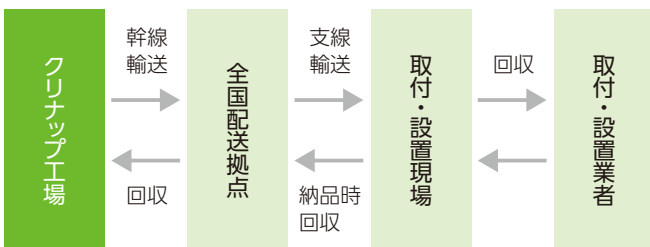


導入前 ダンボール梱包



導入後 シュリンク梱包

リターナブル梱包回収のしくみ



環境活動(2)

■ 協同配送で環境負荷低減

クリナップは物流分野の環境負荷を低減するためにグリーン物流に取り組んできました。その成果のひとつが、経済産業省・国土交通省の「2015年度 グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」の「経済産業省 商務流通保安審議官賞」を受賞したクリナップとTOTO 株式会社さまの協同配送です。

この協同配送は2015年12月にスタートしCO₂排出量削減による環境負荷低減に寄与しています。

■ 湯本工場クレート第二製造課の2直ラインを1直化してエネルギーを削減

クレートとは「クリナップ」「レジン(樹脂)」「テクノロジー」という意味を含むクリナップの造語です。

クレート第一製造課は、人工大理石製品製造の前工程(成型)、クレート第二製造課がその後工程(形状加工)を行っています。

クレート第二製造課には3つの組立ラインがあり、2直での生産を行っていました。組立ラインの1ラインについて、作業者の動線や設備の配置を見直し、約400件におよぶ改善を行い、2017年6月に1直としました。

ラインの稼働時間が半減したことでエネルギー使用量の削減にもつながっています。



湯本工場クレート第二製造課の製造ライン

■ CPSとバリューエンジニアリングを追求してコスト削減

ラインの1直化とともにクレート第二製造課が取り組んだのが、ラインを統合して新しいラインを構築することでした。この取り組みには約500件の改善を行いました。このようなコスト削減の取り組みをVE(Value Engineering:バリューエンジニアリング)と呼びます。VEとは、顧客に提供する価値を最大化する体系的な手法です。「価値」を「機能」と「コスト」で計算式にすると、

$$\text{価値 (Value)} = \text{機能 (Function)} / \text{コスト (Cost)}$$
 になります。製造ラインの合理化ではCPS品質改善、また仕損品削減はQCなどでコスト削減に取り組んでいます。このようなさまざまな取り組みは環境負荷の低減につながります。

ラインの1直化、およびライン統合の省エネ効果は大きく、電力使用量を対前年比で約18%低減することができました。



コンプレッサーモインバーター式の省エネタイプを設置

VOICE

改善を積み重ねて環境負荷低減に寄与

2017年度は、製造コストの削減を目指しました。そして2直だったラインを1直化したことおよびラインの統合によって製造コスト削減を実現しました。さらに材料費や変動費の削減など、工場全体のバリューエンジニアリングの取り組みで製造コスト削減を行い、削減目標を達成しました。

これらの製造コスト削減を可能にしたのは、工場全体で約900件におよぶ改善です。2018年度も、さらに多くの改善を考案、実行することにより環境負荷低減に寄与していきます。



生産本部
湯本工場
クレート第二
製造課長
青木 誠

環境活動 (3)

■ 環境パトロールと省エネパトロール

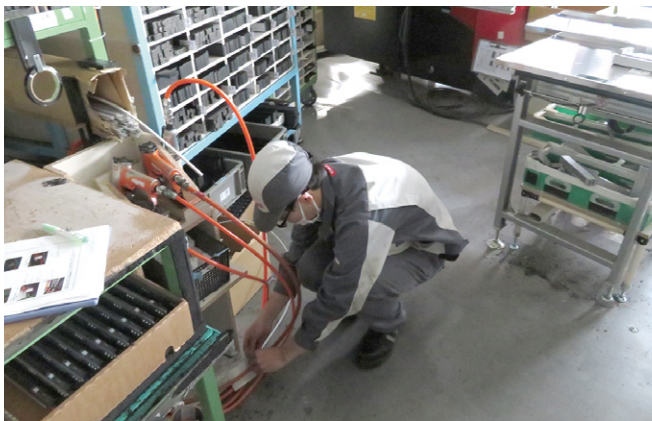
クリナップではふたつの「パトロール」を行っています。ひとつは「環境パトロール」で「汚染の予防」を目的にし、事務所や工場の敷地内、敷地周辺、現場などのエネルギー、廃棄物、化学物質、環境にかかわる設備や施設などの管理状況を現場で確認するものです。

もうひとつが「省エネパトロール」です。エアリーク、無駄な照明、機械の空転などの無駄を発見し、工場に改善を求めるものです。

■ 省エネパトロールで意識改善

省エネパトロールは、しばらく活動が滞っておりましたが、一人ひとりの省エネ意識を高めることを目的として2016年度から再開しました。

省エネパトロールは、いわき工場群の製造ラインを中心として行っており、エネルギーの無駄を取り除き、こまめな省エネ意識を高める活動です。



エアリーク箇所の特定

■ いわき工場群を年2回巡回

省エネパトロールは、各工場の製造ラインを年に2回巡回しています。

省エネパトロールは製造設備が停止している昼休みを利用して、エアリークや照明、冷暖房設備の消し忘れなどをチェックしています。メインになるのはエネルギーロスが大きいエアリークです。

● エアリーク判断基準

番号	調査方法	感覚	エアリーク量 m ³ / min	損失電力 kwh
1	0.3~0.5m 離れて	僅か	1~2	0.02
2		スー	2~3	0.03
3		強いスー	3~5	0.05
4		シュー	5~10	0.1
5		強いシュー	20	0.2

■ 進化する省エネパトロール

2016年度の取り組みでは、不具合箇所を発見した場合は、札を貼り改善要求を行いました。是正されれば札を外すルールになっており、改善の状態がよくわかるしくみです。

この取り組みによって2017年度は是正がスピーディーになり、改善箇所も2016年度の152件から2017年度の117件と大きく減少しました。

しかしこれらは、「起こってしまった不具合」に対する対策です。そういう不具合が起こらないのが理想の姿です。そこで2018年度からは設備保全に力を入れています。定期的に設備機器を点検し、メンテナンスすることで、不具合ゼロを目指します。

VOICE

「攻める保全」を目指す

設備機器の保全は、コスト増につながると考えられがちです。保全にはコストと時間がかかり、保全効果がはっきりしないからです。しかし2018年度から取り組んでいるのは「受け身の保全」ではなく「攻める保全」です。

予期せぬ故障が起これば、工場の稼働率は落ちます。このリスクをゼロに近づけるのが「攻める保全」です。いま「IoT」という言葉が流行していますが、保全でも有効です。故障の前触れには振動、音、熱などの異状が起こりますが、センサーで検知することができます。現在どのようなセンサーがあり、どのような精度を持っているかなどを研究中です。この保全システムが稼働するようになれば、「攻める保全」が実現します。



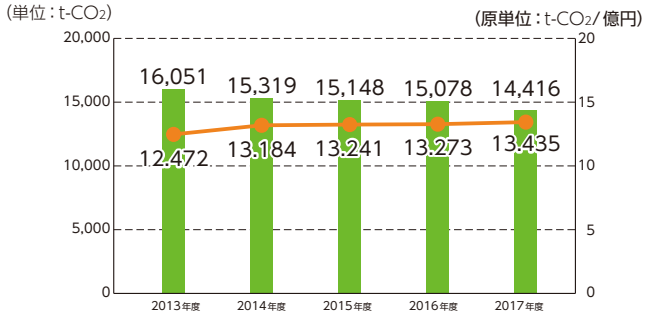
生産本部
生産技術部
設備技術課長
岡田 一宏

環境負荷の低減

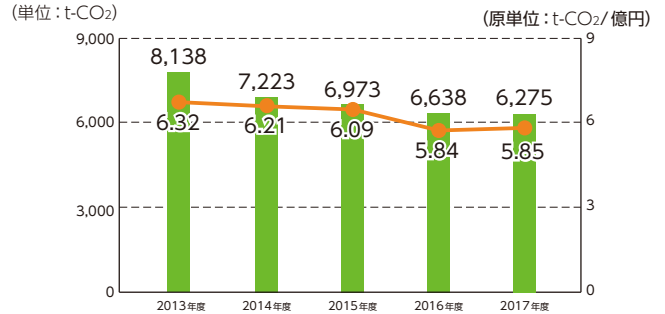
■ クリナップのCO₂排出量と原単位推移

2017年度の結果は、2016年度と比較しますとCO₂排出量は電気、燃料ともに総量では減少していますが、原単位では増加しています。

電気使用に伴うCO₂排出量と原単位推移グラフ
t-CO₂ / 売上高



燃料使用に伴うCO₂排出量と原単位推移グラフ
t-CO₂ / 売上高

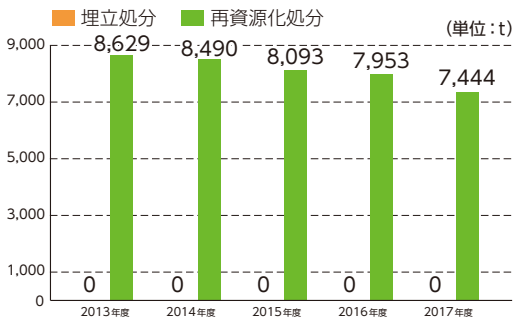


❗ 電気のCO₂排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

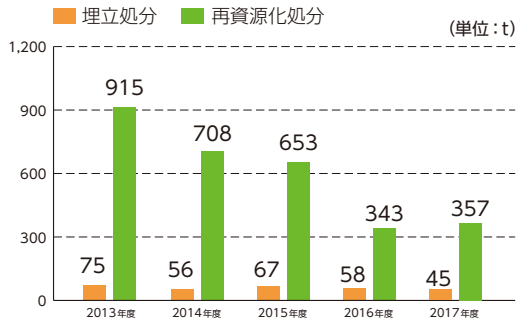
■ ゼロエミッション※1への取り組み

クリナップの製造プロセスで発生する産業廃棄物は91%が木くず、5%が廃プラスチック類、残りの4%はその他が占めています。ゼロエミッションへの取り組みによって、現在の再資源化率は97%です。今後も再資源化率が向上するよう努力していきます。

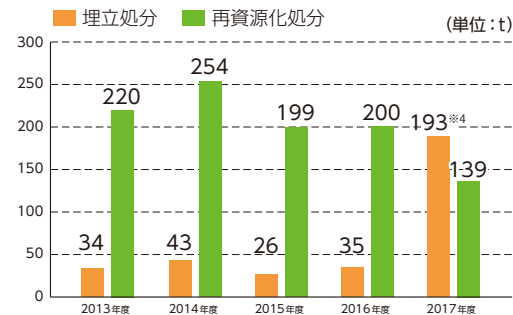
木くずの再資源化処理推移グラフ



廃プラスチックの再資源化処理推移グラフ



その他の廃棄物※2の再資源化処理推移グラフ



※1 ゼロエミッションとは、環境負荷を低減するために廃棄物(emission)を再資源率 99%以上にする事としています。

※2 その他の廃棄物とは、ガラス・陶磁器くず、金属混合物、廃油、汚泥等です。

※3 各処分量は、マニフェストより算出しています。

※4 酸・アルカリ処理槽の汚泥を約20年ぶりに処理したため。

環境会計

●環境保全コスト

(単位：百万円)

活動分類		環境保全コスト			
環境会計ガイドラインの分類	クлинаップの活動分類	投資		費用	
		2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
1. 事業エリア内コスト					
① 公害防止コスト	大気汚染・騒音・振動防止活動コスト	0.0	0.0	12.0	11.5
② 地球環境保全コスト	地球温暖化防止活動など	18.0	14.3	4.7	4.6
③ 資源循環コスト	産業廃棄物再資源化活動、適正処理活動	0.0	23.0	122.9	123.0
2. 上・下流コスト	グリーン購入・調達活動 家電リサイクル法などの対応活動 室内空気汚染物質 リターナブル梱包活動	1.6	5.9	0.6	0.5
3. 管理活動コスト	ISO14001 維持活動 従業員への環境教育・訓練活動 環境指標の監視・測定活動	0.0	0.0	0.1	3.9
4. 研究開発コスト	環境配慮製品の研究・開発活動	0.0	0.0	0.7	0.2
5. 社会活動コスト	地域の清掃・奉仕活動 場内緑化維持活動 社会・環境報告書の発行	3.4	5.5	0.6	1.4
6. 環境損傷対応コスト	該当する活動無し	0.0	0.0	0.0	0.0
環境保全コストの合計		23.0	48.7	141.6	145.1

●環境保全効果

環境保全効果				
物量効果				
物量項目	単位	2016年度	2017年度	前年比
電気使用量	千KWh	25,918	24,751	-1,167
燃料使用量	kℓ (原油換算)	2,492	2,358	-134
水道水使用量	千m ³	126	100	-26
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	21,678	20,653	-1,025
CO ₂ 排出原単位	t-CO ₂ /売上高 (億円)	19.1	15.9	-3.2
再資源化処理割合	%	98	97	-1
産業廃棄物排出量	t	9,613	8,178	-1,435
産業廃棄物排出原単位	t/売上高 (億円)	7.6	7.6	0
一般廃棄物 (可燃物) 排出量	t	51	47	-4
室内空気汚染物質取扱量	t	30	35	5
PRTR取扱量	t	1,156	1,073	-83
グリーン調達対象取引先	取引先数	106	151	45
ダンボール梱包削減量	t	14	70	56

❗ 電気のCO₂排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

●環境保全対策に伴う経済効果

(単位：百万円)

経済効果の内容		2016年度	2017年度
1. 収益	有価物売却などにより得られた事業収入	77.2	86.4
2. 費用節減	資源の効率的利用に伴う原材料費の節減、 省エネルギーによる費用の節減	1.8	17.8
	リサイクルに伴う廃棄物処理費の低減	0.0	0.0
合計		79.0	104.2

環境会計の集計方法について

- 環境保全コスト …… 減価償却費：投資額の減価償却費用を費用に含めて算出しています。
複合コスト：環境保全のほか、品質改善活動、原価低減活動などのように、支出目的が複数考えられる場合は、目的基準に従い、環境保全目的で投下された費用のみを集計しています。
- 環境保全効果 …… 効果の対象：直接把握できる環境負荷のみを対象にして算出しました。
- 環境保全対策に伴う経済効果 …… 効果の範囲：実質的效果のみを対象にして算出しました。

環境経営 (1)

■ ISO14001の認証取得

クリナップは、ISO14001 認証を下記表の通り取得し、環境保全活動をP (計画)、D (運用)、C (監視・測定)、A (見直し) の管理サイクルに従い、事業活動に展開し継続的改善に取り組んでいます。2015年版への移行は、2018年4月に完了しました。

● ISO14001 認証取得部門

区分	部門名
製造部門	四倉工場
	鹿島システム工場
	鹿島工場
	湯本工場
	岡山工場
	鹿島アート工場 (関連会社)
	野田工場 (関連会社)
オフィス部門	本社
	いわき部門
物流部門	クリナップロジスティクス株式会社 (関連会社)

● 管理サイクルの運用状況

	管理サイクル	運用時期
P	当年度計画	3～4月
D	運用期間	毎月
C	内部監査	5～10月
	法規制の要求に対する評価	10～12月
	目標達成に対する見込み評価	10～12月
A	経営者による見直し	12～2月
P	次年度計画策定	3月
C	外部審査	6～11月

■ 環境関連法令の順守

毎年1回、12月から1月に法的要求事項に対する適合性評価を実施し、適合していることを確認しています。

● 大気汚染防止法

鹿島システム工場は、大気汚染防止法対象設備である木くずボイラー 1基、A重油ボイラー 2基、冷温水発生機 2基を保有しています。それらの設備から排出される「ばいじん量」、「窒素酸化物濃度」、「硫黄酸化物K値」を年2回定期的に測定しています。その結果、排出基準にすべて適合しています。

● 排出基準と測定結果

事業場	対象設備	排出基準			排出濃度測定結果	
		測定項目	単位	基準値	2016年度	2017年度
鹿島システム工場	木くずボイラー	ばいじん量	g/Nm ³	0.4	0.11	0.097
		窒素酸化物濃度	ppm	400	87	90
		硫黄酸化物K値	—	6	<0.048	<0.051
	A重油ボイラー	ばいじん量	g/Nm ³	0.3	0.009	0.006
		窒素酸化物濃度	ppm	260	70	70
		硫黄酸化物K値	—	6	1.2	0.51
	A重油ボイラー	ばいじん量	g/Nm ³	0.3	0.004	0.006
		窒素酸化物濃度	ppm	260	52	62
		硫黄酸化物K値	—	6	1.5	1.1
	冷温水発生機	ばいじん量	g/Nm ³	0.3	0.01	0.005
		窒素酸化物濃度	ppm	180	72	94
		硫黄酸化物K値	—	6	0.27	0.29
	冷温水発生機	ばいじん量	g/Nm ³	0.3	0.007	0.008
		窒素酸化物濃度	ppm	180	66	66
		硫黄酸化物K値	—	6	0.33	0.22

環境経営 (2)

●省エネルギー法

クリナップは改正省エネルギー法の特定事業者に該当し、2017年度の「定期報告書」「中長期計画書」を2018年7月に主務大臣宛に提出しています。

なお、鹿島システム工場は2012年度のエネルギー使用量の合計が原油換算で1,745kℓだったため、2013年度6月の報告より第二種エネルギー管理指定工場に指定されており、2017年度の実績も1,665kℓだったので、指定は継続されています。

また、物流部門ではクリナップが特定荷主に該当しており、2017年度実績の定期報告書および2018年度以降の計画書を2018年6月に主務大臣宛に提出しています。

●エネルギー原油換算使用量

区分	エネルギー原油換算使用量 (kℓ)	
	2016年度	2017年度
オフィス・製造	8,500	9,303
物流	1,530	1,389

●水質汚濁防止法

湯本工場、鹿島アート工場、開発本部 クリナップ研究所では、水質汚濁防止法に定める特定施設を保有し、その排水の当該排水基準にかかわる検定方法により、年1回定期的に測定しています。その結果、排水基準にすべて適合しています。

●排水基準と測定結果

事業場	排水基準			排水測定結果	
	測定項目	単位	基準値	2016年度	2017年度
湯本工場	六価クロム	mg/ℓ	0.2	<0.05	<0.05
	pH	—	5.8 ~ 8.6	8.1	7.4
	SS	mg/ℓ	50	4.4	1.6
	BOD	mg/ℓ	15	2.6	16
	n-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	10	<0.5	<0.5
	全窒素	mg/ℓ	60	1.3	7.6
	全リン	mg/ℓ	8	0.14	0.48
	溶解性鉄	mg/ℓ	10	0.5	0.3
鹿島アート工場	全クロム	mg/ℓ	2	<0.05	<0.05
	六価クロム	mg/ℓ	検出されないこと	検出限界値以下	検出限界値以下
	pH	—	5.8 ~ 8.6	7.5	7.3
	SS	mg/ℓ	70	<0.5	<0.5
	BOD	mg/ℓ	20	7.5	1.9
	n-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	5	<0.5	<0.5
	銅	mg/ℓ	2	<0.05	<0.05
	溶解性鉄	mg/ℓ	10	<0.1	0.2
	全クロム	mg/ℓ	1	<0.02	<0.02
	鉛	mg/ℓ	0.1	<0.01	<0.01
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物	mg/ℓ	100	<0.7	29
	COD	mg/ℓ	60	4.3	4.9
開発本部 クリナップ 研究所	ニッケル	mg/ℓ	2	<0.1	<0.1
	pH	—	6.0 ~ 8.5	7.3	6.6
	BOD	mg/ℓ	15	2.5	11
	SS	mg/ℓ	50	<5	7
	大腸菌群	個/cm ³	3000	0	1000
	クロム化合物	mg/ℓ	2	<0.2	0.2
	溶解性鉄	mg/ℓ	10	<1	1
	n-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	10	<0.5	<0.5
	フッ素およびその化合物	mg/ℓ	8	<0.8	<0.8
	四塩化炭素	mg/ℓ	0.02	<0.002	<0.002
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物	mg/ℓ	100	—	20	

※鹿島アート工場の排水基準は、いわき市公害防止協定値に準じています。

環境経営 (3)

● PRTR法

PRTR法では、法が指定する第1種指定化学物質(462物質)の年間取扱量が1トンを超える場合(ただし、特定第1種指定化学物質は0.5トン以上)、その排出量と移動量を届け出ることを義務づけています。その届出についてですが、PRTR法に基づく届出対象工場は、湯本工場、鹿島工場、岡山工場、鹿島アート工場の合計4工場でした。これらの届出を2018年6月に完了、受理されています。また、2017年度のクリナップの指定化学物質の取扱量、排出量および移動量は次の通りです。

● 2017年度PRTR法第1種指定化学物質の取扱量などのデータ

指定化学物質名称	取扱量 (t)	排出量 (t)		廃棄物としての移動量 (t)
		大気放出	水への排出	
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	1.3	0.0	0.0	0.0
エチルベンゼン	0.1	0.1	0.0	0.0
キシレン	1.1	1.0	0.0	0.1
エチレンジグリコールモノエチルエーテルアセテート	0.1	0.0	0.0	0.0
n-ヘキサン	9.0	8.6	0.0	0.4
スチレン	28.7	0.1	0.0	0.6
トルエン	4.5	4.2	0.0	0.1
ニッケル化合物	12.3	0.0	0.0	0.0
フタル酸nブチル	0.2	0.0	0.0	0.0
フタル酸ジ2エチルヘキシル	0.1	0.0	0.0	0.0
ホルムアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0
マンガン及びその化合物	2.7	0.0	0.0	0.0
メタクリル酸	1.5	0.0	0.0	0.0
メタクリル酸メチル	757.7	3.7	0.0	14.7
その他	253.3	0.5	0.0	25.3
合計	1,072.5	18.3	0.0	41.2

● 廃棄物処理法

クリナップは、産業廃棄物排出事業者の責任として、次のことを行っています。

- ① マニフェストによる適正処理の確認(マニフェスト交付担当者への教育も含む)
- ② 廃棄物保管場所の施設点検
- ③ 廃棄物飛散・漏洩時の緊急事態対応訓練
- ④ 廃棄物分別・削減教育およびその取り組み
- ⑤ 産業廃棄物収集運搬および処分業者の契約内容の確認および契約前の事前確認

また、廃棄物処理法の要求とは別に、収集・運搬業者や中間処理または最終処分場に出向き、廃棄物が適正に処理されていることを定期的に確認しています。

2017年度は、いわき地区と岡山地区を対象にサンプリングで視察を行い、結果は下記の通りすべて適合していました。

今後も廃棄物を適切に処分するよう監視するとともに、廃棄物そのものを削減する方向で取り組んでいきます。

● 2017年度処理委託先適正処理実地確認結果

地区	実地確認期間	区分	対象数	結果
いわき地区事業所	2017年12月～2018年3月	収集・運搬委託先	1社	適合
		中間処理または最終処分委託先	4社	適合
岡山地区事業所	2017年10月	収集・運搬委託先	3社	適合
		中間処理または最終処分委託先	2社	適合



中間処理場チェック いわき地区



中間処理場チェック 岡山地区



最終処分場チェック 岡山地区

環境経営 (4)

●家電リサイクル法

クリナップは、家電リサイクル法で定める特定家庭用機器として冷凍庫・冷蔵庫を販売しています。従って法的義務である耐久性の向上、修理体制の充実を図り、廃棄物の発生を抑制する設計、部品、原材料を工夫し、再商品化に要する費用を低減するよう努めるとともに、クリナップ責任で販売店や自治体が引き取りしものを指定引取場所まで運搬して、再商品化処理を行っています。これら法的要求事項に準じた2017年度の処理実績を報告します。

なお、冷凍庫・冷蔵庫の法定リサイクル率は60%以上です。

1. 法定家庭用機器廃棄物の再商品化等実施状況 (総括)

指定引取場所での引取台数	994 台
再商品化処理台数	973 台
再商品化等処理重量	63 t
再商品化重量	51 t
再商品化率	80 %

◎引取台数と処理台数の差は、2016年度末現在での処理在庫分です。

2. 対象期間

開始した年月日	2017年4月 1日
終了した年月日	2018年3月31日

●容器包装リサイクル法

クリナップは、特定包装利用事業者の義務として毎年度、再商品化を指定法人の公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ委託し、再商品化委託料を支払っています。

なお、特定包装に該当するものは、取り扱い説明書のポリ袋です。

●消防法

クリナップは、危険物を保有するすべての事業所について、設置許可、届出、施設の構造、表示などの適合状況を環境マネジメントシステム監査および環境パトロールにて監視しています。

●PCB特別措置法

高濃度PCB廃棄物は、2009年6月19日に低圧コンデンサ1台、2014年4月28日に蛍光灯安定器216本を日本環境安全事業株式会社の北海道事業所へ運搬し、適正処理しました。

微量PCB廃棄物は、2016年10月15日に変圧器6台とコンデンサ1台の適正処理を実施しました。新たに2018年3月3日に変圧器2台とコンデンサ1台を更新し、4月18日に適正処理しました。また、2018年5月19日に変圧器1台とコンデンサ2台を更新し、特別管理産業廃棄物として保管しています。

●その他公害防止関係法令

クリナップの製造部門は、上記以外に騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、浄化槽法などの法的要求事項についてすべて適合しています。また、物流部門では道路運送車両法、自動車NOx・PM法などの法的要求事項にすべて適合しています。

3. 製品の部品または材料として利用するものを有償または無償で譲渡しうる状態にした場合の当該製品および材料の総重量

鉄	25.49 t
銅	0.79 t
アルミニウム	0.13 t
非鉄・鉄等混合物	6.52 t
その他有価物	17.11 t
有価物総重量	50.06 t

4. 冷媒として使用したものを回収した総重量 60kg

5. 断熱材に含まれるフロンを液化回収した総重量 109kg

●再商品化委託料金

社名	再商品化委託料金 (円)	
	2016年度	2017年度
クリナップ株式会社	54,496	65,464
クリナップ岡山工業株式会社*	13,860	

*クリナップ岡山工業株式会社は2017年4月1日クリナップ株式会社に吸収合併しています。



微量PCBを含む変圧器、コンデンサの搬出

環境教育・保安防災への取り組み

■ 環境教育・訓練

クリナップは、各部門で年間の環境教育・訓練計画を策定し、計画的に環境教育・訓練を実施しています。環境保全活動に必要な教育や訓練を社内規程で定めており、社内・社外研修へ参加し全従業員が環境保全活動に取り組めるよう人材育成を実施しています。

● 一般的な環境教育・訓練

全従業員に共通する環境保全活動に必要な教育や訓練として、省エネ、廃棄物削減、資源の有効利用、危険物取り扱い、避難訓練、消火訓練などを取り上げ定期的に実施しています。



消火訓練 (本社)



消火訓練 (本社)



避難訓練 (本社)

● 社内資格を与える環境教育・訓練

環境に著しく影響をおよぼすと思われる作業および活動に従事する従業員を「特定業務従事者」として位置づけています。特定業務従事者には必要に応じ教育や訓練を行い、力量が一定の社内基準を満たした者に対し特定業務従事者として認定する制度を導入しています。中でも環境マネジメントシステムを一層充実させるため、またパフォーマンスの向上を図るため、内部環境監査員の養成セミナーを定期的に行っています。

● 特定業務の種類と2017年度までの認定者数

■ 産業廃棄物管理責任者	177名
■ 特別管理産業廃棄物管理責任者	41名
■ 危険物貯蔵・取扱業務従事者	71名
■ 環境設備管理担当者 (大気・水質・騒音・振動公害防止管理者含む)	152名
■ エネルギー管理者(電気)	14名
■ 内部環境監査員養成セミナー修了者	58名



内部監査員養成セミナー

■ 緊急事態への対応

クリナップは危険物類、廃棄物保管などの取り扱い、燃焼・汚水処理施設の運転や操作方法のミスによる環境汚染を予防するため、定期的に「緊急事態対応訓練」と称して実際の道具を使用した訓練を行っています。

今後も、施設や設備の点検を定期的に行い、事故の発生を未然に防止しながら、緊急事態発生に備えた対応訓練を継続していきます。

● 想定した緊急事態

- ボイラー、危険物類からの火災
- 化学物質の漏洩、地下浸透
- 廃棄物(木くず、樹脂、金属の削り粉)の飛散



消火訓練
(いわき)



消火訓練 (いわき)

環境保全活動の沿革

クリナップの環境保全活動関係の実績をまとめました。

- | | | | |
|------|--|------|---|
| 1999 | ● 鹿島工場が環境管理の国際規格ISO14001の認証を取得 | 2006 | ● 空調の省エネとしてアースコンシャスを鹿島システム工場、クレート工場に導入 |
| 2000 | ● 第1次中期経営計画制定、全社環境保全活動を本格的に開始
● 鹿島工場HIPS樹脂部品の端材を他部品の原料として利用開始
● 使用木部材をホルムアルデヒド放散のもっとも少ないE0、Fc0に切り替え実施
● 全社アイドリングストップ運動を開始 | 2007 | ● 鹿島システム工場でESCO事業で導入した省エネ設備の運転開始
● 環境省の「チーム・マイナス6%」に登録参加
● クリナップロジスティクス株式会社が北海道便のモーダルシフト(船舶輸送)を開始
● グループ全体で省エネ効果のある仕事がしやすい服装「C-Biz」を開始 |
| 2001 | ● 四倉工場、株式会社クリナップステンレス加工センター・鹿島アート工場がISO14001の認証を取得
● 環境保全活動の拡大に伴い、品質環境保証部から独立させた環境保全室を設置
● クリナップ研究所が環境計量事業登録
● 鹿島システム工場木くず端材用の焼却炉を稼働停止
● 鹿島工場FRP廃棄物を埋立処分から再資源化处理に移行
● ハウスメーカー向けのカウンター用のリターナブル梱包を導入、運用開始 | 2008 | ● 環境保全室から「生産統括部品質環境推進部」に組織名称変更
● 化粧パネル用リターナブル梱包をハウスメーカー向けに運用開始 |
| 2002 | ● クリナップ岡山工業株式会社がISO14001の認証を取得
● クリナップ本体を対象に環境会計を導入
● ボード供給メーカーと木くず端材の循環利用システムを構築、運用開始。同時に、容器包装系廃棄物の圧縮、再資源化处理も運用開始 | 2009 | ● 本社で高効率エネルギーシステムの運転開始
● 営業車を省エネカーとして軽自動車へ切り替えを開始
● 全国158台のPCサーバを137台に集約し、省エネ型に全面刷新
● 環境省より広域認定制度の認可を取得 |
| 2003 | ● 建築基準法改正に伴い、使用木部材をすべて建築基準法に定められた材料に切り替えることを決定
● 環境基本方針制定、第2次中期経営計画スタート
● 鹿島システム工場、湯本工場がISO14001の認証を取得
● クリナップ運輸株式会社がディーゼル車排ガス規制に対応 | 2010 | ● いわき部門が「福島議定書」事業のオフィス部門で最優秀賞を受賞
● 生産統括部品質環境推進部から「CS推進本部品質環境保証部」に組織名称変更
● 住宅部品表示ガイドラインに基づく基準適合の製品表示をキッチン、洗面化粧台全シリーズで開始
● 環境省の「チャレンジ25キャンペーン」に登録参加 |
| 2004 | ● クリナップグループとしてISO14001の認証を取得
● カウンター用リターナブル梱包の活動が、福島県主催のゼロエミッション提案コンクールで優秀賞を受賞
● キャビネット用リターナブル梱包をハウスメーカーへ試行、運用開始 | 2011 | ● 全社的二氧化碳素削減方針として「CO ₂ 排出量を2020年までに2009年度対比12% (約3,000t)削減」を発表
● 電気事業法第27条への対応として大口需要家5工場と小口需要家2事業所の連携による輪番休業を7月1日から9月9日まで実施
● 日本最大級の環境展示会、「エコプロダクツ2011」に初出展 |
| 2005 | ● クリナップロジスティクス株式会社、クリナップ運輸株式会社、クリナップ岡山運輸株式会社がISO14001認証を取得。クリナップグループの物流部門がISO14001の組織に加わる
● キャビネット用リターナブル梱包をハウスメーカー向けに運用開始
● 省エネ推進スタッフ(電気対策WG、熱・燃料対策WG)を結成、運用開始
● 環境報告書の初版を発行 | 2012 | ● 環境省「緊急CO ₂ 削減・節電ポテンシャル診断」を受診
● 「キッチンからecoしよう」をテーマに「エコプロダクツ2012」に出展 |
| 2006 | ● 機器用リターナブル梱包をハウスメーカー向けに運用開始
● クリナップ岡山工業株式会社津山工場がISO14001の認証を取得 | 2013 | ● 全社的二氧化碳素削減方針を省エネルギー法に準拠し前年比原単位1%削減に変更
● 「エコプロダクツ2013」に「キッチンお掃除学校」をテーマに出展 |
| | | 2014 | ● 「世界でひとつのエコキッチン工場」をテーマに「エコプロダクツ2014」に出展 |
| | | 2015 | ● 「グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」受賞 |
| | | 2016 | ● ワークトップ・リターナブル梱包をリニューアル |
| | | 2017 | ● 岡山工場でワークトップ・リターナブル梱包運用開始 |
| | | 2018 | ● 2015年版ISO14001の認証を取得
● 鹿島システム工場でキッチン壁パネルのシュリンク梱包運用開始 |

2017トピックス

▶2017年8月

面倒な換気扇掃除を解決し続けて10年 「洗エールレンジフード」が累計販売台数20万台突破!

自動洗浄機能付き換気扇「洗エールレンジフード」が2007年の発売以来10年を迎え、数度のモデルチェンジを経て、累計販売台数20万台を突破しました。

わずか0.65ℓのお湯でフィルターを自動洗浄する「洗エールレンジフード」はこの間に2度のグッドデザイン賞の他、平成26年度省エネ大賞 経済産業大臣賞を受賞。ご使用いただいたお客さまからは「憂鬱だったお掃除から解放された!」「排水に油が浮くので掃除を実感できる」など、喜びの声も寄せられています。



累計販売台数20万台を突破した
「洗エールレンジフード」

▶2017年12月

伊・プレミアムキッチンメーカー Valcucine ショールーム 「Valcucine Tokyo」、12月18日に国内初オープン

クリナップは、システムキッチンの富裕層市場に向け、2017年9月に取引契約を締結したイタリアのプレミアムキッチンブランドValcucine(バルクッチーネ)の、国内初となる専用ショールーム「Valcucine Tokyo」を12月18日(月)、東京・南青山にオープンしました。富裕層のニーズに応えるべく作り上げたプレミアムキッチンを心ゆくまで堪能いただけます。当面はハウスメーカー・デベロッパーさまを対象に完全予約制で運営します。

住所：東京都港区南青山4-1-12 1階、TEL：03-3810-2555、Email：grp.valcucine@cleanup.jp



「Genius Loci」(ジーニアスロッチ)

▶2018年2月

匠の技が光る、新 ステンレスシステムキッチン「CENTRO」

構造体にステンレスを採用し、オールスライド収納や美コートワークトップなど、これまで培ってきた機能をさらに進化させ、トレンドデザインと融合させた「CENTRO(セントロ)」の受注を2月1日から開始しました。ものづくりへのこだわり「クラフツマンシップ(職人手作り)」アイテムとして、特徴的なデザインの「クラフツマンデッキシンク」や、日本美を追求した京友禅柄手塗り扉をラインナップしています。



匠の技が光る、新ステンレスシステムキッチン
「CENTRO」

▶2018年2月

洗面化粧台「TIARIS」をリニューアル

洗面化粧台「TIARIS(ティアリス)」を2月1日にリニューアルしました。5年ぶりとなる今回のモデルチェンジでは、「ステンレスキャビネット」「流レールボール」を標準装備する機能性向上に加え、要望が多かった大間口への対応が可能になりました(規格間口750mm～1800mm)。

高級感があり、水晶のような美しい透明感が特長の「フォーツカウンター」は、繊細な大柄表現を施した2色を追加。上品さを備えました。また鏡にLED照明を埋め込んだ「ビテラスミラーキャビネット」が業界初登場。



美にこだわる
フラッグシップ洗面化粧台「TIARIS」



特定非営利活動法人 循環型社会研究会
理事 山口 民雄

製品の機能情報は企業にとっても消費者にとっても重要で欠かせない情報です。しかし、この情報は、製品情報という海面に浮かんでいる氷山の一角にすぎず、今日、最も重要な情報はその製品が作られる過程に潜む製品文化（社会・環境側面）であり、それらを支える企業理念です。消費者の倫理的消費や企業の社会的責任が広がりを見せる昨今では、一層こうした情報が重視されています。こうした情報の最も適切な開示媒体が本報告書と考えます。

この観点から本報告書を拝見すると、50頁という限られた紙幅に製品文化が記載され、これら製品文化と社会との接点を作りだす報告書の使命を果たしています。貴社は従来から「クリナップは『社会の公器』」と主張され、企業風土が醸成されていることから、こうした報告書が出来上がってきたと考えます。企業にとって、あらゆる経営資源は社会が生み出したものです。企業がこうした経営資源を社会から預かり事業を展開していることを強く認識されているからこそ、このような主張をされていることと思います。今後、全従業員の間でこうした認識がより浸透し、日常の業務の中でさまざまな社会の公器性が発揮される（＝CSRの実践）ことを期待します。

本報告書の作成過程で、何度か意見交換の場がありました。その中で印象に残ったのが“報告書の活用”です。多くの企業で報告書作成には注力しますが、その活用についてはあまり議論されません。営業部門やショールームへ特に重点的に配布し活用することや営業部門から追加請求の報告もありました。追加請求は、製品文化の媒体として評価されていることの証左といえましょう。現在、フルレポート（PDF版）とダイジェスト（冊子版）があり、概ね妥当な情報の切り分けとなっていると判断しますが、活用者の声を集め検証することが必要と思います。社会から、とりわけ企業、投資家の情報開示要請が高まっていることからフルレポート（冊子）+WebでのESG情報開示という選択も検討されるべきと考えます。また、創業70周年を機にタイトルの変更も検討されてはいかがでしょうか。

2015年のパリ協定や国連のSDGsの採択により、“Transforming the World”（我々の世界を変革する）との熱意が顕在化してきています。CO₂排出量削減も例外ではありません。パリ協定の重要なポイントは、将来CO₂排出をゼロにするという方向性を打ち出したことです。この目標を掲げる企業や、中には既にゼロを達成した企業、工場もあります。このような社会状況の中で貴社の目標を見ると、時間軸も目標の規模感も不十分と言わざるを得ません。環境負荷低減については、この間地道にかつ、効果的に進めてこられたことは高く評価しますが、社会が大きく変革に向かう時には一足飛びに変革に繋がるビジョンとそこからバックキャストした中長期目標の設定が肝要ではないでしょうか。その際、現状の技術を前提として削減可能性を積み上げていく発想では追いつきません。

循環型社会研究会：次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会の在り方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。研究会内のCSRワークショップで、CSRのあるべき姿を研究し、提言している。
URL:<http://junkanken.com/>

クリナップ株式会社

ホームページアドレス

<http://cleanup.jp/>

問い合わせ先 CS推進本部 品質環境保証部 環境ISO推進課
TEL.0246(34)0216 FAX.0264(34)7607
Eメール grp.kanky@cleanup.jp